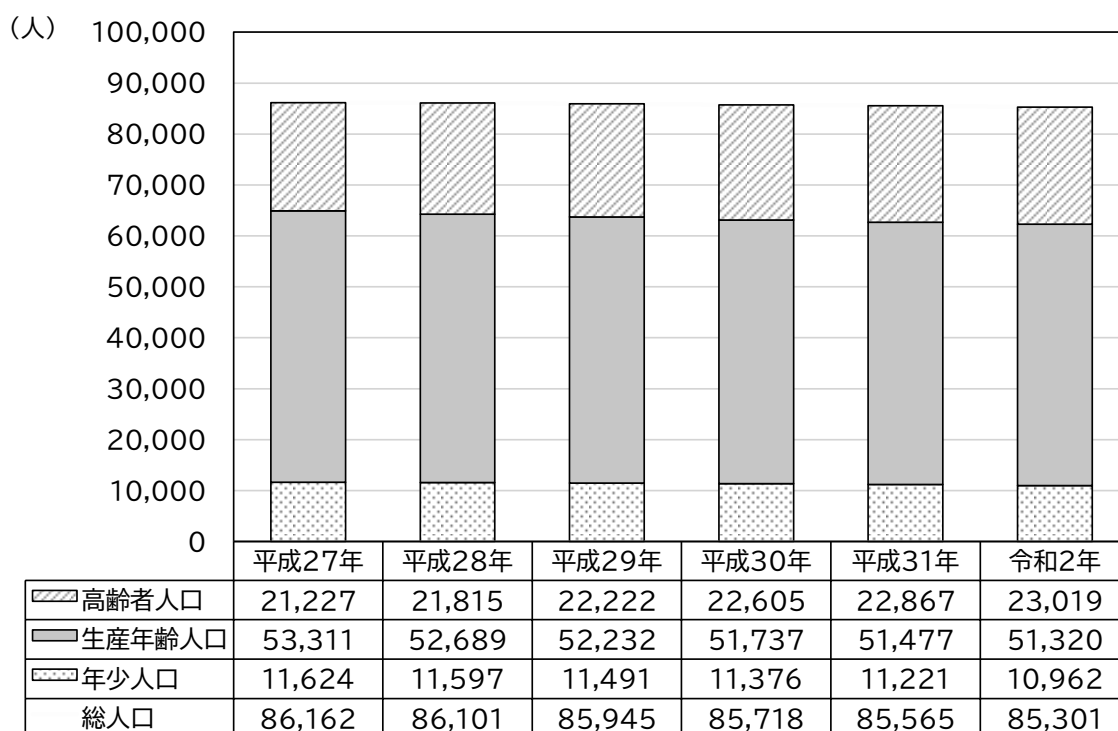


第2章 東大和市の現状

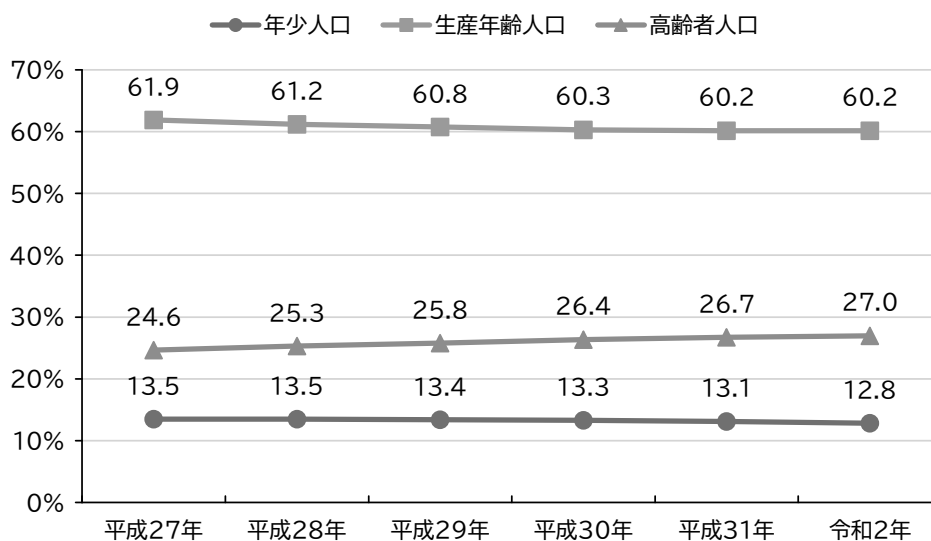
【1】市の人口・世帯の推移

1 人口の推移

当市の人口は、平成27年の86,162人から令和2年では、85,301人と毎年微減状況が続いています。また、年齢区分別の構成比では、高齢者人口は微増、生産年齢人口、年少人口はともに微減となっています。



資料:「統計東やまと」(各年1月1日現在)



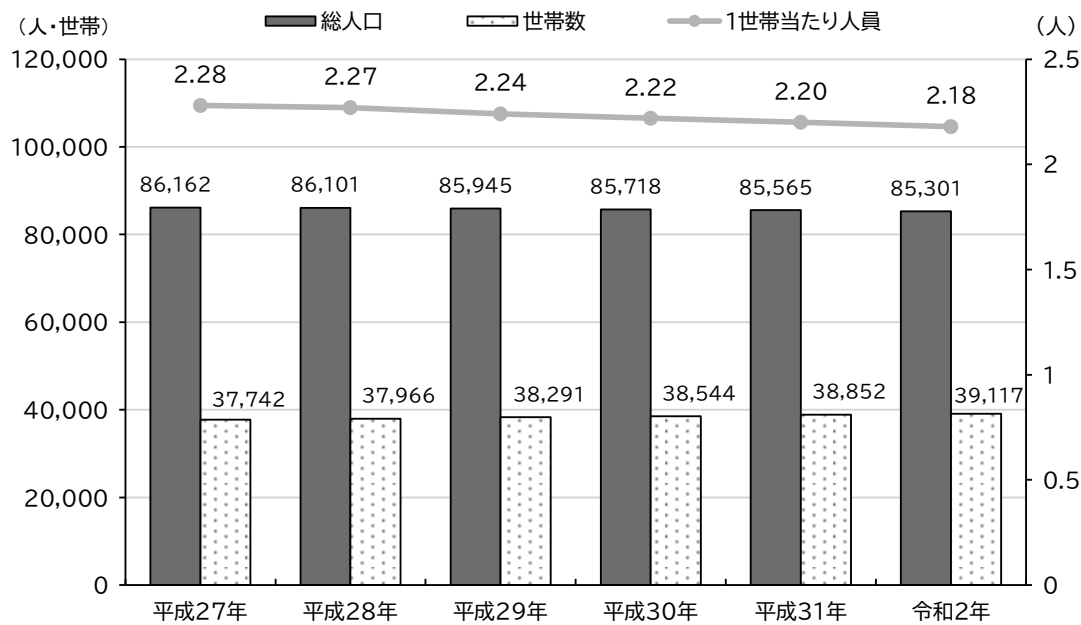
資料:「統計東やまと」(各年1月1日現在)

※年少人口(0～14歳) 生産年齢人口(15～64歳) 高齢者人口(65歳以上)

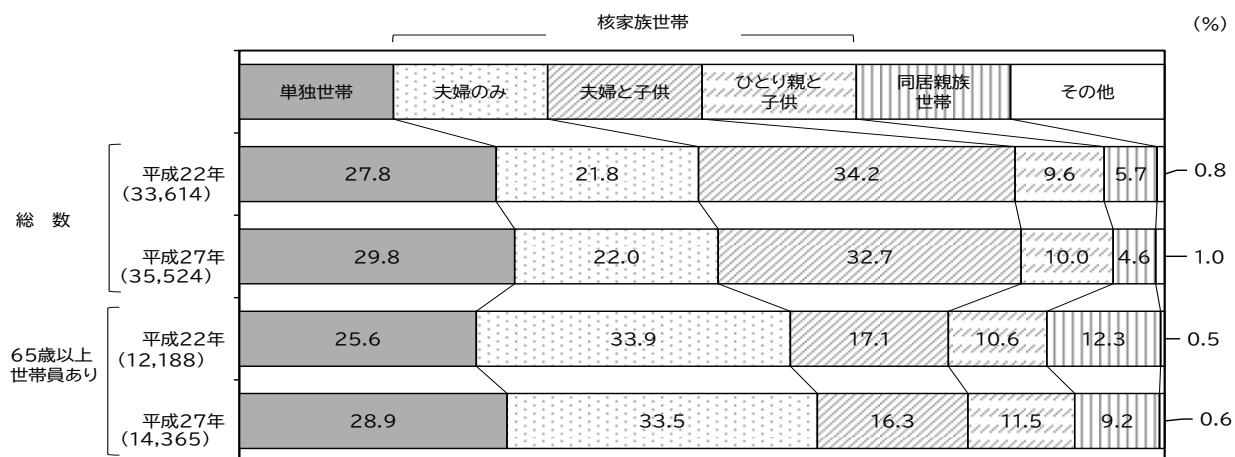
2 世帯数・世帯構成

当市の世帯数は、平成 27 年の 37,742 世帯から令和2年では、39,117 世帯と増加傾向が続いていますが、1世帯当たり人員は、平成 27 年の 2.28 人から令和2年の 2.18 人へと緩やかに減少しています。

世帯構成は、平成 22 年と平成 27 年を比べてみると、全体では単独世帯割合が増加しています。なかでも、65 歳以上の単独世帯は 25.6%から 28.9%に増加しています。



資料:「統計東やまと」(各年 1 月1日現在)



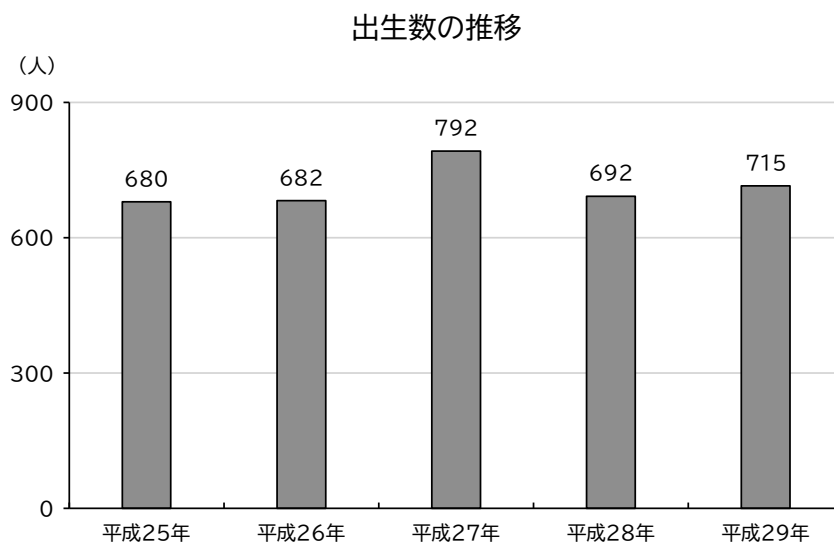
資料:「国勢調査」

※(母数・世帯数)に家族類型「不詳」を含む。割合は「不詳」を除いて算出。

【2】人口動態

1 出生数と合計特殊出生率

当市の出生数は、平成 27 年に 792 人と前年度を大きく上回りましたが、おおむね 700 人前後で推移しています。また、合計特殊出生率は、平成 26 年では全国の 1.42 を下回ったものの、平成 27 年以降は、全国、東京都、圏域を上回る値で推移しています。



資料:「北多摩西部保健医療圏保健医療福祉データ集」令和元年度版

合計特殊出生率の推移

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
東大和市	1.37	1.67	1.48	1.59	1.47
圏 域	1.28	1.40	1.34	1.32	1.36
東 京 都	1.15	1.24	1.24	1.21	1.20
全 国	1.42	1.45	1.44	1.43	1.42

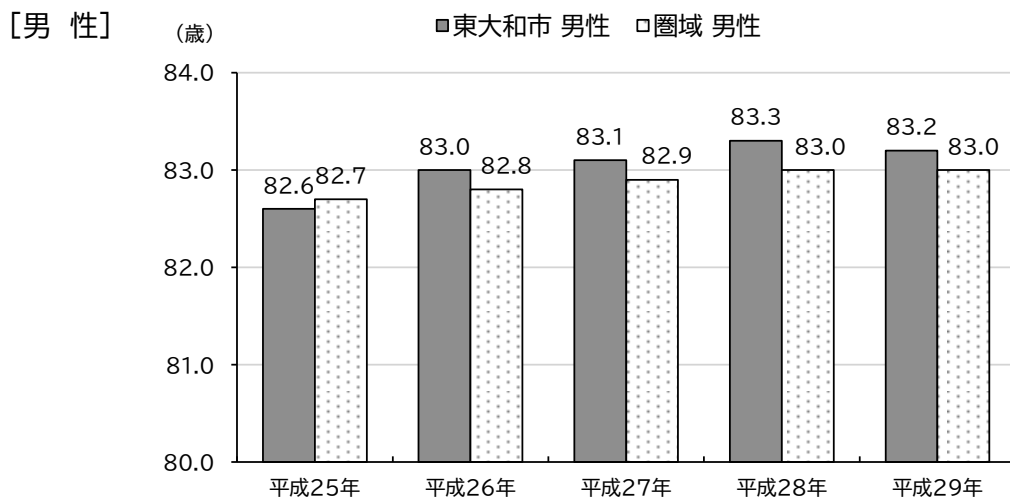
資料:「北多摩西部保健医療圏保健医療福祉データ集」令和元年度版

※合計特殊出生率＝(母の年齢別出生数／翌年 1 月 1 日現在における年齢別女子人口)15 歳から 49 歳までの合計。

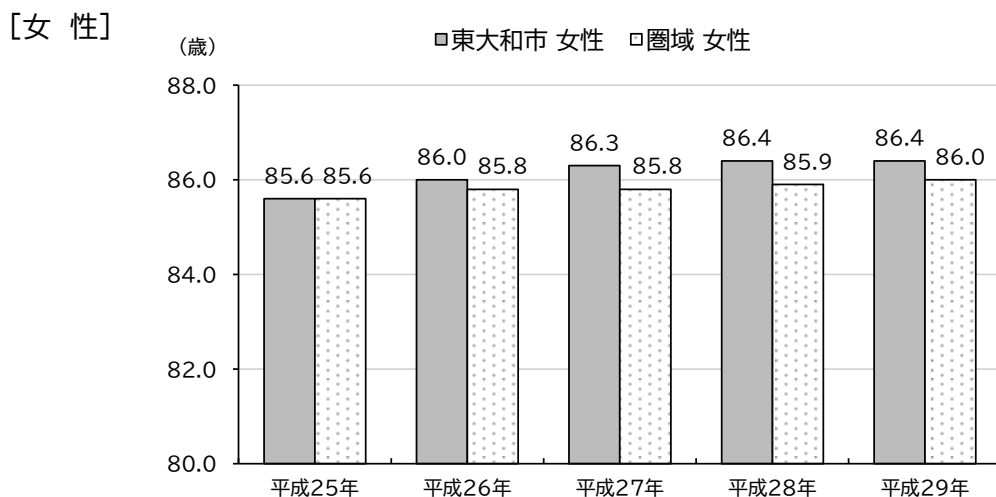
※「圏域」とは、北多摩西部保健医療圏のことで、立川市、昭島市、国分寺市、国立市、東大和市、武蔵村山市の 6 市で構成されている。

2 65 歳健康寿命

当市の 65 歳の健康寿命は、男女ともに微増で推移しており、平成 25 年から平成 29 年の5年
間では、男性が 0.6 歳、女性が 0.8 歳延びており、圏域と比べても健康寿命、延び幅ともに当市が
上回っています。



資料:「北多摩西部保健医療圏保健医療福祉データ集」各年度版



資料:「北多摩西部保健医療圏保健医療福祉データ集」各年度版

※「65歳健康寿命」とは、65歳の人が何らかの障害のために要介護認定を受けるまでの状態を健康と考え、その障害のために認定を受ける年
齢を平均的に表すものをいう。

上記のグラフは、「要介護2以上」の認定を受けるまでの状態を健康と考えた場合の指標である。

3 平均寿命

当市の平均寿命は、男女ともに微増傾向で推移していますが、平成 12 年から平成 27 年の 15 年間の伸びをみると、男性は 3.0 歳と全国、東京都とほぼ変わらず、女性は 2.9 歳と全国より高くなっています。

(単位:歳)

	平成 12 年		平成 17 年		平成 22 年		平成 27 年		平均寿命の伸び (平成 12 年-平成 27 年)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
東大和市	78.1	84.3	80.1	85.4	79.8	86.5	81.1	87.2	3.0	2.9
東 京 都	78.0	84.4	79.4	85.7	79.9	86.4	81.1	87.3	3.1	2.9
全 国	77.7	84.6	78.8	85.8	79.6	86.4	80.8	87.0	3.1	2.4

資料:「北多摩西部保健医療圏保健医療福祉データ集」各年度版

※「平均寿命」とは、0 歳児における平均余命(あと何年生きることができるかという期待値)のこと。市区町村別平均寿命については 5 年おきに公表されている。

4 死亡数・死亡率

当市の死亡数は、増減を繰り返していますが、700 人弱から 800 人弱の範囲で推移しています。また死亡率は、8%弱から 9%強の範囲で推移しており、全国よりは低くなっています。

主要疾患別死亡数と乳児死亡数・死産数の推移

(単位:人)

区 分	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
死亡総数	685	668	771	742	748
悪性新生物	211	206	237	233	241
心疾患(高血圧性を除く)	98	91	93	95	112
肺炎	76	80	69	53	62
脳血管疾患	65	66	81	60	52
自殺	14	12	16	12	14
乳児死亡数(乳児死亡率)※1	0 (0.0)	1 (1.5)	3 (3.8)	2 (2.9)	3 (4.2)
死産数(死産率)※2	18(25.8)	9(13.0)	15(18.6)	15(21.2)	13(17.9)

資料:「北多摩西部保健医療圏保健医療福祉データ集」各年度版

※1乳児死亡数(乳児死亡率)=年間乳児(生後 1 年未満)死亡数/年間出生数×1,000

※2死産数(死産率)=年間死産(自然死産・人工死産)数/年間出産数(出生数+死産数)×1,000

死亡率の推移

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
東大和市	7.8	9.2	8.7	8.8	9.5
圏 域	7.9	8.7	8.6	9.0	9.2
東 京 都	8.5	8.5	8.6	8.8	8.9
全 国	10.1	10.3	10.5	10.8	11.0

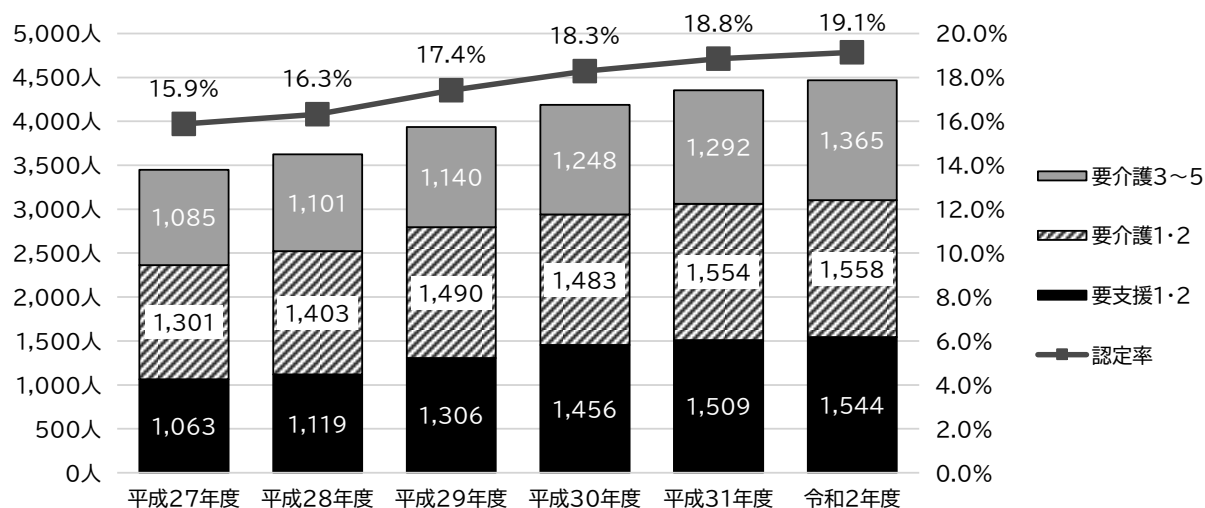
資料:「北多摩西部保健医療圏保健医療福祉データ集」各年度版

※死亡率=年間死亡数/各年 10 月 1 日現在の人口×1,000

【3】要支援・要介護認定者及び生活習慣病の状況

1 介護度区別認定者数及び認定率の推移

当市の要支援・要介護認定者数、認定率は、年々増加傾向が続いており、令和2年9月末現在要支援・要介護認定者数 4,467人で、認定率は 19.1%となっています。



資料：介護保険事業状況報告月報(各年9月末)

2 生活習慣病の状況

当市の生活習慣病患者数は、平成 26 年度から平成 30 年度の5年間でみると、全ての疾病において減少しています。

生活習慣病患者数の推移

(単位：人)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
糖尿病	5,942	6,065	5,931	5,859	5,810
高血圧症	6,474	6,340	6,123	5,905	5,643
脂質異常症	6,377	6,285	6,062	5,766	5,665
高尿酸血症	1,386	1,419	1,373	1,406	1,354
肝機能障害	3,974	3,783	3,712	3,473	3,294
動脈硬化	1,139	1,043	999	982	828
脳血管疾患	2,224	2,213	2,185	1,998	1,909
虚血性心疾患	1,910	1,833	1,724	1,729	1,634
動脈閉そく	580	550	478	227	242

資料：保険年金課

3 特定健康診査等の実施状況

当市の特定健康診査の対象者は年々減少していますが、受診率は 50%前後で推移しています。また、特定保健指導の指導利用率は、平成 28 年度及び平成 29 年度の 12%弱から平成 30 年度は 7.0%と減少しましたが、平成 31 年度は 14.4%と上昇しています。

特定健康診査の受診状況

(単位:人、%)

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
	対象者	受診率	対象者	受診率	対象者	受診率	対象者	受診率
特定健康診査	15,753	50.6	14,706	50.5	14,098	50.7	13,572	49.5

資料:保険年金課

※対象者＝国民健康保険に加入している 40 歳から 74 歳

特定保健指導の利用状況

(単位:人、%)

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
	対象者	利用率	対象者	利用率	対象者	利用率	対象者	利用率
特定保健指導	784	11.7	808	11.8	755	7.0	689	14.4

資料:保険年金課

※対象者＝特定健康診査受診者のうち、特定保健指導が必要と診断された人



【4】健康づくり事業の実施状況

1 成人保健事業

(1)健康相談等

当市では、「健康増進法」に基づく各事業として健康相談、健康教育、各健康診査事業を実施しています。

また、市の独自事業として、若年層の健康診査を実施し、市民の健康の保持・増進に努めています。

主な健康相談等実施状況

(単位:回・人)

区 分	平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数
がん検診時保健相談	31	1,814	30	1,812	7	707
女性の健康相談	3	1	3	2	2	3
こころの健康相談	10	11	9	13	9	15
成人健康相談	6	5	6	11	6	5
生活習慣病予防教室	2コース	47	2コース	50	2コース	52
糖尿病予防教室	2コース	57	2コース	48	2コース	38
いきいきヘルシー教室	2コース	59	2コース	38	2コース	35
女性のいきいき健康教室	2	24	2	15	2	9
健康づくり講演会	1	18	1	30	1	10
歯周病予防講演会	1	7	1	8	1	9
こころの健康づくり講演会	3	53	3	98	1	33

資料:健康課

各健(検)診実施状況

(単位:人)

区 分	平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	受診者数	要医療等	受診者数	要医療等	受診者数	要医療等
無保険者等健康診査	437	受診勧奨43	463	受診勧奨46	463	受診勧奨40
若年層健康診査	318	要医療79	347	要医療96	325	要医療86
骨粗しょう症検診	154	要精検32	157	要精検27	178	要精検37
歯周疾患検診※	372	要精検287	299	要精検245	196	要精検128
肝炎ウイルス検診	1,047	陽性 8	971	陽性 4	1,100	陽性 9

資料:健康課・保険年金課

※「歯周疾患検診」については、平成30年度までは、40歳、50歳、60歳、70歳の市民が対象だったが、平成31年度より「成人歯科健康診査」「後期高齢者医療歯科健康診査」に変更し、30歳、40歳、50歳、60歳、70歳の市民及び76歳、80歳、85歳の無保険等の市民と76歳、80歳、85歳の後期高齢者医療制度の被保険者の市民を対象としている。

※「要医療等」とは、健(検)診の結果、治療勧奨や精密検査が必要とされた市民。

(2)各種がん検診

各種がん検診は、国の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」及び「新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業実施要綱」に基づき実施しています。がん検診推進事業については、対象者に対して胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診、子宮頸がん検診、乳がん検診の案内を個別に通知し、検診を実施しています。

また、市の独自事業として、前立腺がん検診、胃がんリスク検査を実施し、市民の健康の保持・増進に努めています。

各がん検診等実施状況

(単位: %・人)

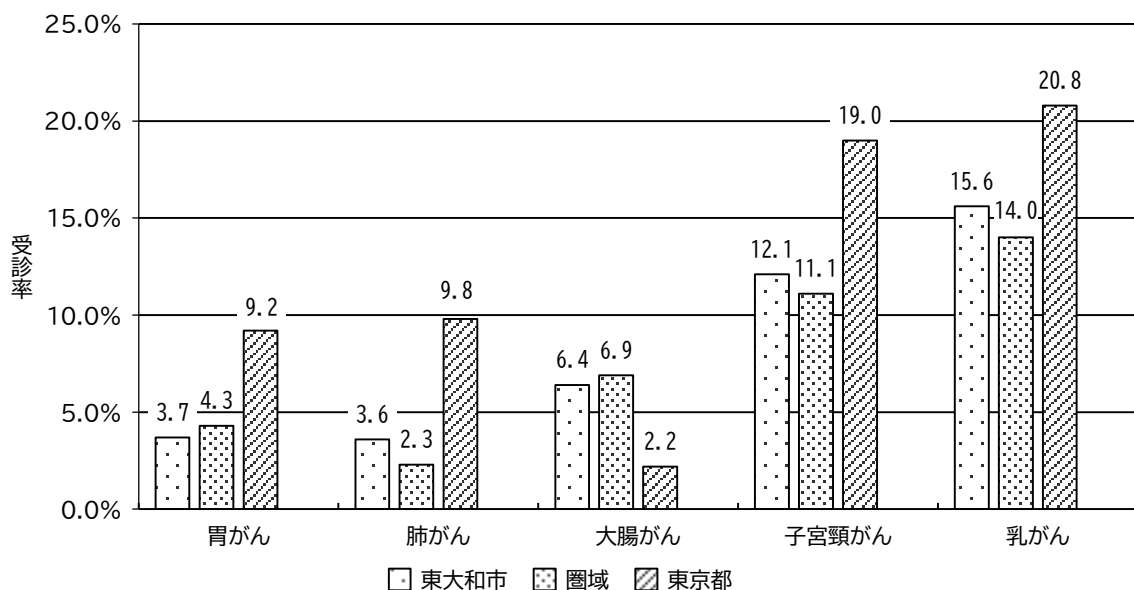
区 分	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	受診率	がん発見率	受診率	がん発見率	受診率	がん発見率
胃がん検診	2.0%	0.00%	3.5%	0.22%	3.7%	0.19%
肺がん検診	2.4%	0.00%	2.4%	0.26%	3.6%	0.09%
大腸がん検診	6.1%	0.00%	4.7%	0.14%	6.4%	0.25%
子宮頸がん検診	9.3%	0.00%	10.2%	0.09%	12.1%	0.07%
乳がん検診	12.9%	0.25%	14.8%	0.15%	15.6%	0.51%
前立腺がん検診※	398人	1.01%	490人	0.81%	502人	0.79%
胃がんリスク検査※	549人	—	341人	—	501人	—

資料:東京都福祉保健局「区市町村別 がん検診実施状況一覧」 東大和市「プロセス指標等一覧シート」

※国の指針に基づかない事業のため、受診率の算出は行っていない。

平成29年度の各がん検診の受診率は、「大腸がん」以外は東京都より低くなっています。また、圏域との比較では、「胃がん」、「大腸がん」は低くなっていますが、「肺がん」、「子宮頸がん」、「乳がん」は高くなっています。

各がん検診受診率比較(平成29年度)



資料:東京都、東大和市/平成30年度東京都がん検診精度管理評価事業による平成29年度実績
圏域/北多摩西部保健医療圏保健医療福祉データ集平成29年度実績(令和元年度版)

2 食育推進事業

当市では、「食育基本法」等に基づき、食を通じて心身の健康と豊かなこころを育むことができるよう、各教室において食育の講話を実施しています。

また、食育推進ネットワーク会議を開催し、関係機関と連携しながら食育の推進を図っています。

食育推進事業実施状況

(単位:回・人)

事業名	平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数
離乳食講習会	22	229	22	202	21	221
幼児食講習会	3	30	3	28	3	26
親子料理教室	2	59	2	57	2	61
男性の料理教室	2	14	2	15	1	3
ミニ糖尿病予防教室	2	12	2	15	2	12
食育推進事業	4	46	4	59	3	40
食育推進ネットワーク会議	3	関係者※	4	関係者※	3	関係者※

資料:健康課

※食育推進ネットワーク会議関係者(令和2年度)

東京都多摩立川保健所
市民部 産業振興課
子育て支援部 保育課
福祉部 健康課
学校教育部 給食課
学校教育部 教育指導課



3 予防接種事業

予防接種は、感染症を予防し、又は、り患しても症状を軽度抑える上で最も基本的かつ効果的な対策の一つであり、市民の生命と健康を守る重要な手段です。

当市では、「予防接種法」に基づき定期予防接種の勧奨に努め、定期予防接種を実施しています。

主な定期予防接種の接種率の推移※

(単位:%)

予防接種名	平成29年度	平成30年度	平成31年度
結核(BCG)	97.9	98.9	103.1
三種混合第Ⅰ期初回(3回) ※1	—	—	—
四種混合第Ⅰ期初回(3回) ※2	99.0	100.9	100.5
二種混合第Ⅱ期 ※3	72.1	69.7	73.6
麻しん・風しんⅠ期(1回)	97.7	100.3	95.1
麻しん・風しんⅡ期(1回)	97.8	96.7	97.4
日本脳炎第Ⅰ期初回(2回) ※4	109.7	106.9	101.3
日本脳炎第Ⅱ期 ※4	102.5	118.7	115.8
ヒブ感染症初回(3回)	99.6	103.3	99.4
小児肺炎球菌感染症初回(3回)	98.9	103.3	100.7
ヒトパピローマウイルス感染症(3回) ※5	—	—	—
水痘(2回)	89.8	94.4	96.8
B型肝炎(3回)	100.2	103.0	101.3
高齢者インフルエンザ ※6	47.9	49.0	52.1
高齢者の肺炎球菌感染症 ※7	36.3	30.3	17.2

資料:健康課

※前年度以前の対象者が当該年度に接種することにより、接種率が100%を超える場合がある。

※1 ジフテリア・百日せき・破傷風の予防接種

※2 ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオの予防接種

※3 ジフテリア・破傷風の予防接種

※4 平成23年度からは、3歳児の他積極的接種を控えていた期間の対象者への接種が再開され、順次、対象者へ勧奨通知をした。

第Ⅰ期:平成23年度9・10歳児(小学3年、4年生)

平成24年度8・9歳児(小学2年、3年生)

平成25年度7・8歳児(小学1年、2年生)

第Ⅱ期:平成25年度から勧奨通知を再開したが、対象者の中には第Ⅰ期の接種を完了していない場合があるため、第Ⅰ期の接種完了後の接種を勧奨した。

※5 ヒトパピローマウイルス感染症については、平成25年6月から引き続き積極的な接種の勧奨を中止している。

※6 接種時65歳以上の方が対象

※7 高齢者の肺炎球菌感染症については、平成26年10月1日から定期予防接種となった。また、経過措置として、平成26年度から平成30年度まで当該年度中に65、70、75、80、85、90、95、100歳になる方、平成31年度のみ101歳になる方が対象となった。

【5】市民の健康に関する意識調査の主な結果

1 調査の概要

調査の目的

当市では、「第2次東大和市健康増進計画」の策定に当たり、日頃の市民の皆様の「健康に関する意識」を把握し、市民の皆様が心身ともに健康に暮らしていけるように支援していくための基礎資料とするために意識調査を実施しました。

調査の方法

- 調査対象：市内在住の20歳以上の市民から無作為抽出
- 調査期間：2019(令和元)年12月10日(火)～12月24日(火)
- 調査方法：郵送配布・郵送回収
- 配布・回収状況：

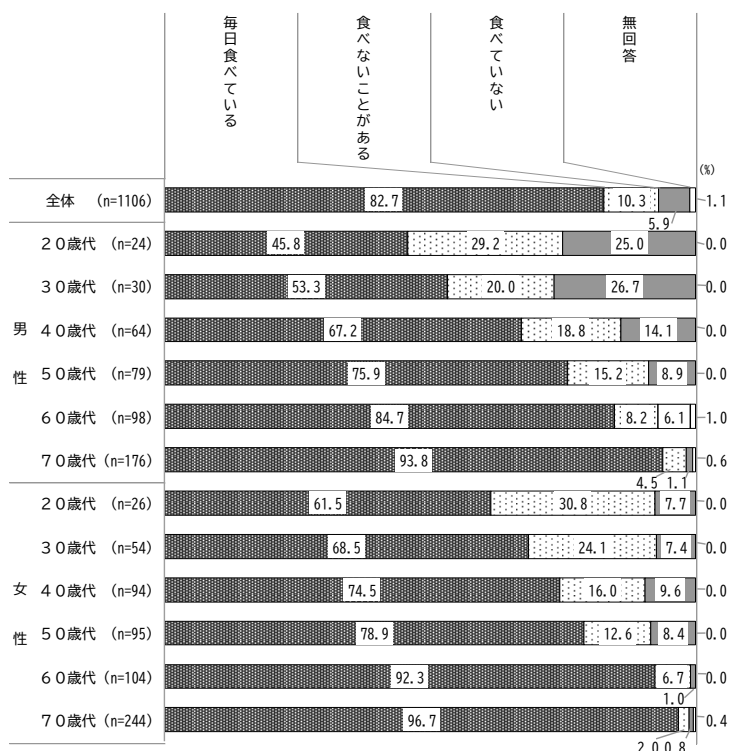
配布数	回収数	有効回答数	有効回収率
2,989 票	1,106 票	1,106 票	37.0%

2 主な調査結果

問10 朝食の摂取状況

朝食の摂取状況については、「毎日食べている」が82.7%と最も高く、次いで「食べないことがある」が10.3%、「食べていない」が5.9%となっています。

全ての年代において、「食べていない」は男性の方が女性に比べて高くなっており、特に20歳代、30歳代の男性は、25.0%、26.7%と高くなっています。

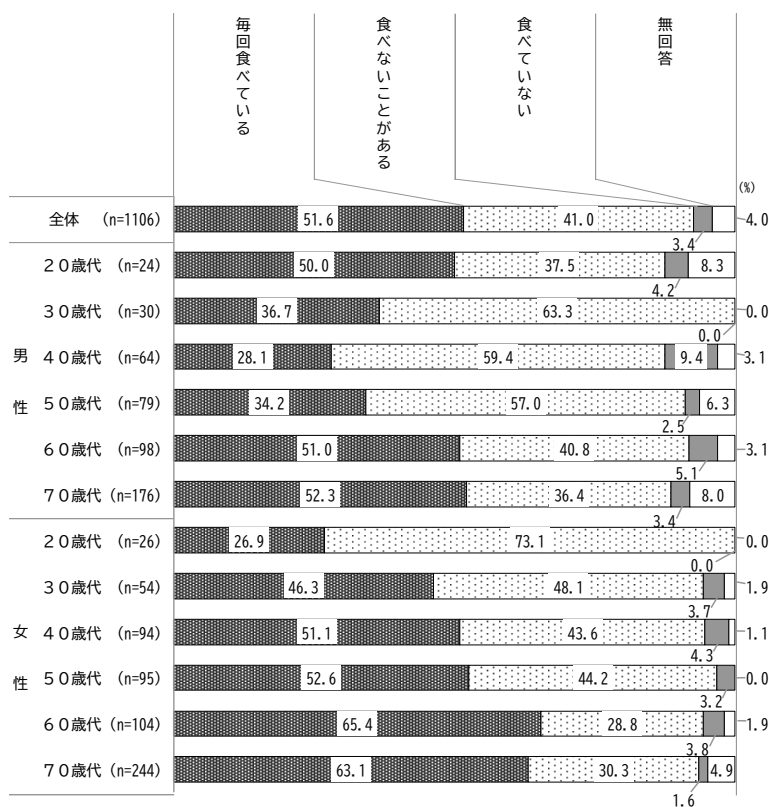


※グラフ、表中の「70歳代」には、80歳以上の方も含まれます(以下同様です。)

問 13(2) 毎回の食事での野菜の摂取状況

毎回の食事での野菜の摂取状況については、「毎回食べている」が 51.6%、「食べないことがある」が 41.0%、「食べていない」が 3.4%となっています。

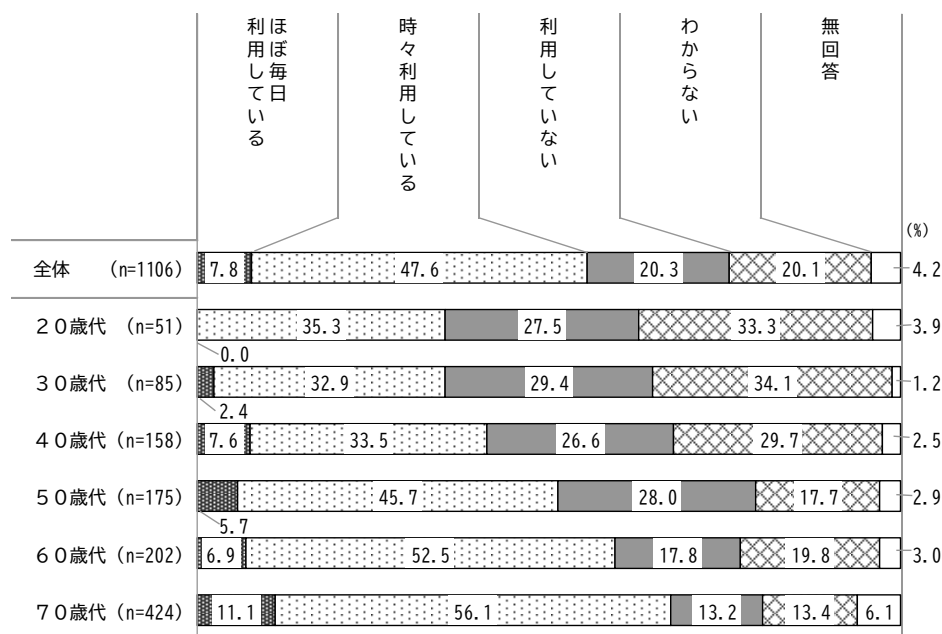
「食べないことがある」は、20 歳代から 50 歳代で高く、特に 20 歳代女性が 73.1%、30 歳代から 50 歳代男性が 63.3%、59.4%、57.0%と高くなっています。



問 14 東大和市産の野菜の利用状況

東大和市産の野菜の利用状況については、「時々利用している」が 47.6%と最も高く、次いで「利用していない」が 20.3%、「わからない」が 20.1%、「ほぼ毎日利用している」が 7.8%となっています。

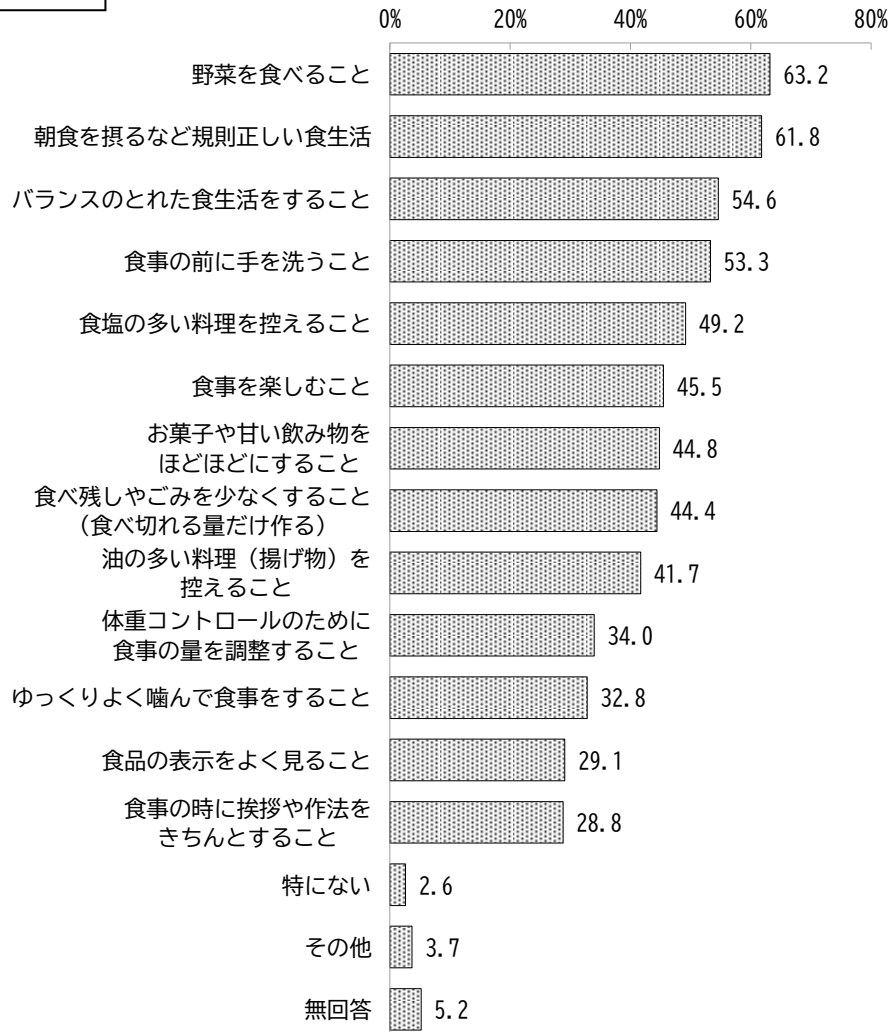
「利用していない」は、20 歳代から 50 歳代で 27.5%、29.4%、26.6%、28.0%と高くなっています。また、「ほぼ毎日利用している」と「時々利用している」を合わせると、年代が上がるにつれて高くなっており、60 歳代、70 歳代は 59.4%、67.2%となっています。



問 16 食生活で心がけていること

食生活で心がけていることについては、「野菜を食べること」が 63.2%と最も高く、次いで「朝食を摂るなど規則正しい食生活」が 61.8%、「バランスのとれた食生活をする事」が 54.6%、「食事の前に手を洗うこと」が 53.3%、「食塩の多い料理を控えること」が 49.2%、「食事を楽しむこと」が 45.5%、「お菓子や甘い飲み物をほどほどにすること」が 44.8%、「食べ残しやごみを少なくすること(食べ切れる量だけ作る)」が 44.4%、「油の多い料理(揚げ物)を控えること」が 41.7%と続いています。

n=1,106

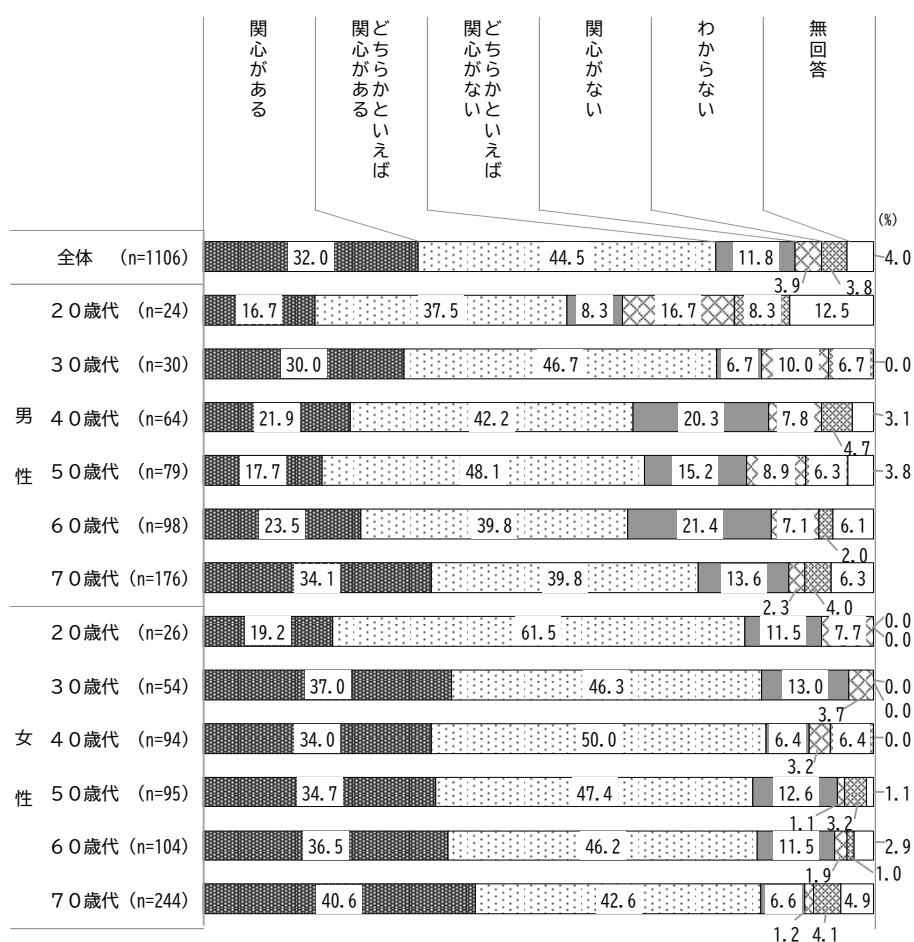
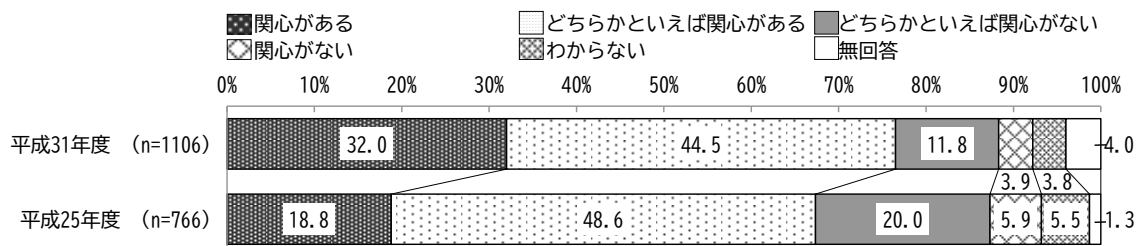


問 18 「食育」の関心度

「食育」の関心度については、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせて 76.5%、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせて 15.7%となっており、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた方が 60.8 ポイント高くなっています。

前回調査との比較では、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせて 76.5%と9.1 ポイント増加し、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせて 15.7%と 10.2 ポイント減少しています。

「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせると、20 歳代、40 歳代から 60 歳代の男性が 25.0%、28.1%、24.1%、28.5%と高くなっています。



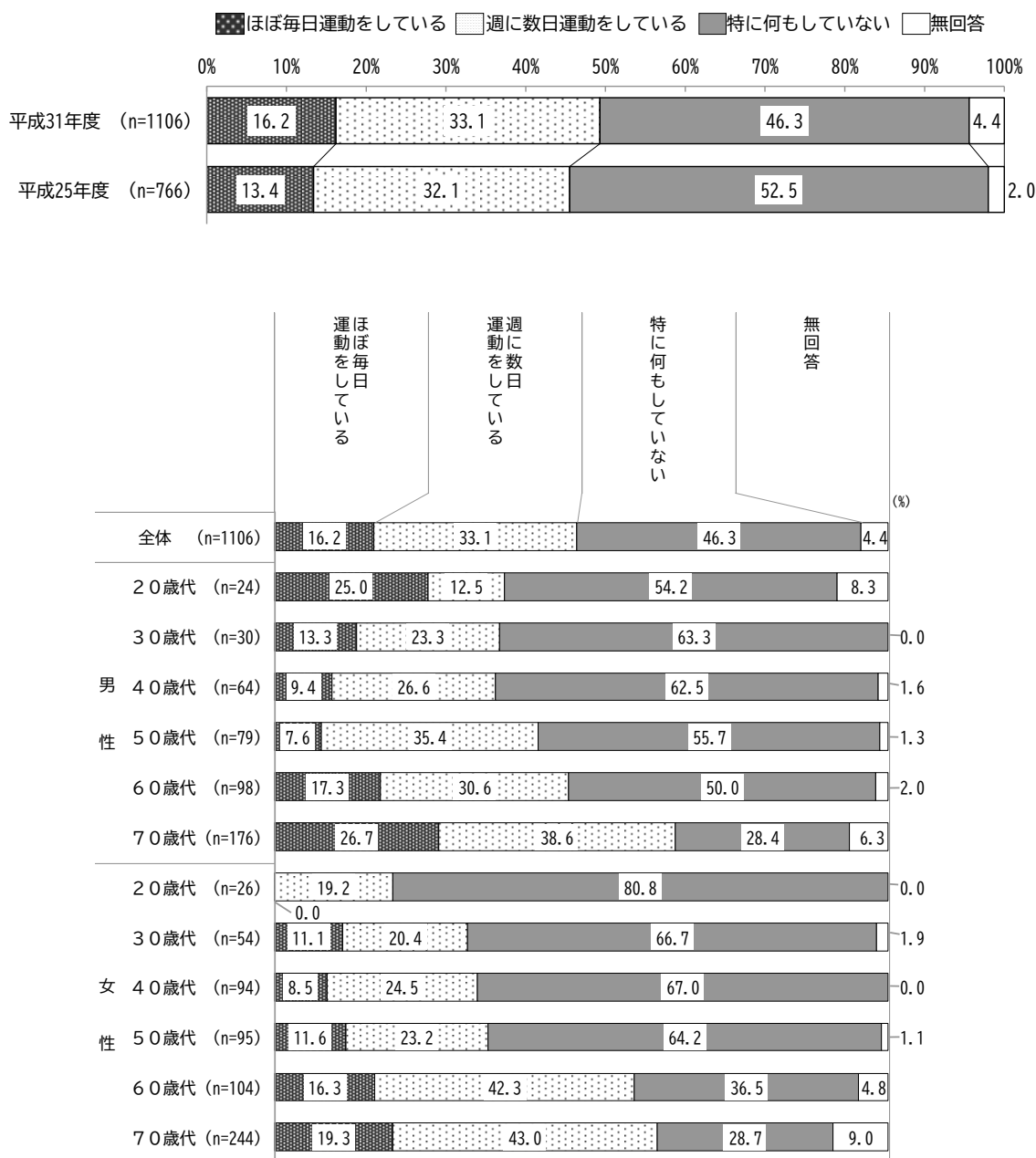
問 20 習慣的な運動状況

習慣的な運動状況については、「週に数日運動をしている」が33.1%と最も高く、「ほぼ毎日運動をしている」が16.2%となっています。

なお、「特に何もしていない」は46.3%となっています。

前回調査との比較では、「特に何もしていない」が46.3%と6.2ポイント減少しています。

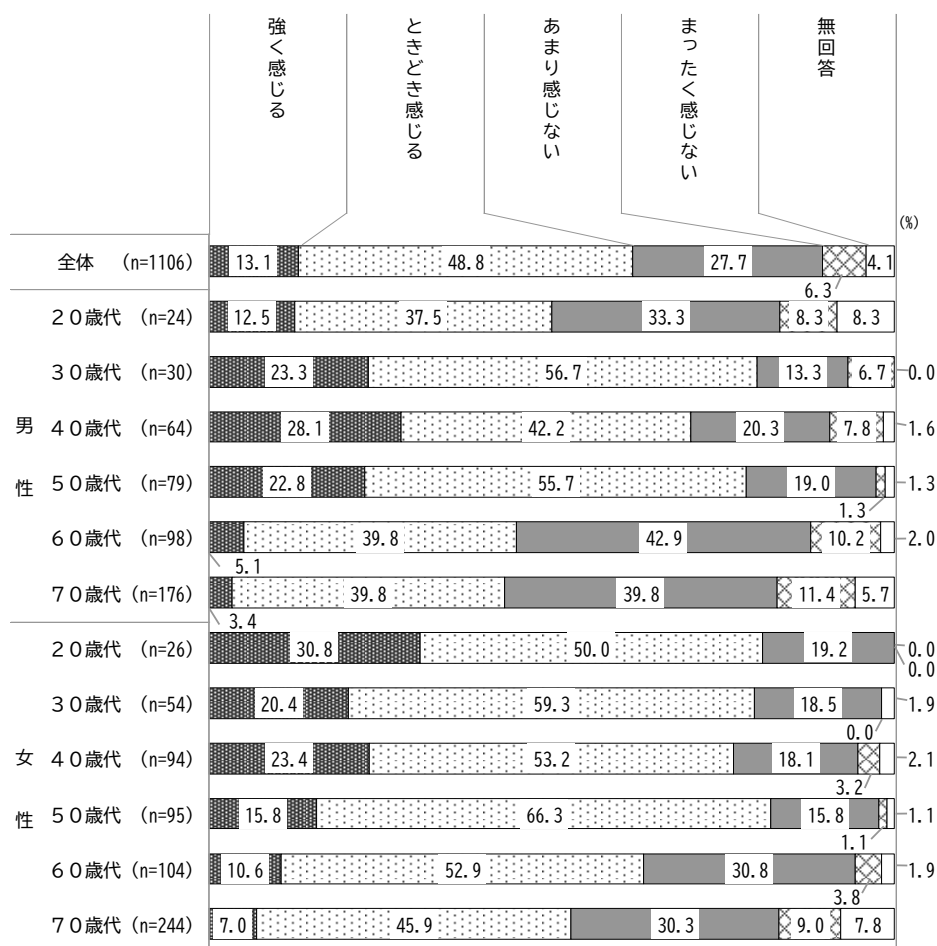
「特に何もしていない」は20歳代から50歳代で高く、20歳代女性は80.8%と特に高くなっています。



問 23 不安やストレスの有無

不安やストレスについては、「強く感じる」と「ときどき感じる」を合わせて 61.9%、「あまり感じない」と「まったく感じない」を合わせて 34.0%となっており、「強く感じる」と「ときどき感じる」を合わせた方が 27.9 ポイント高くなっています。

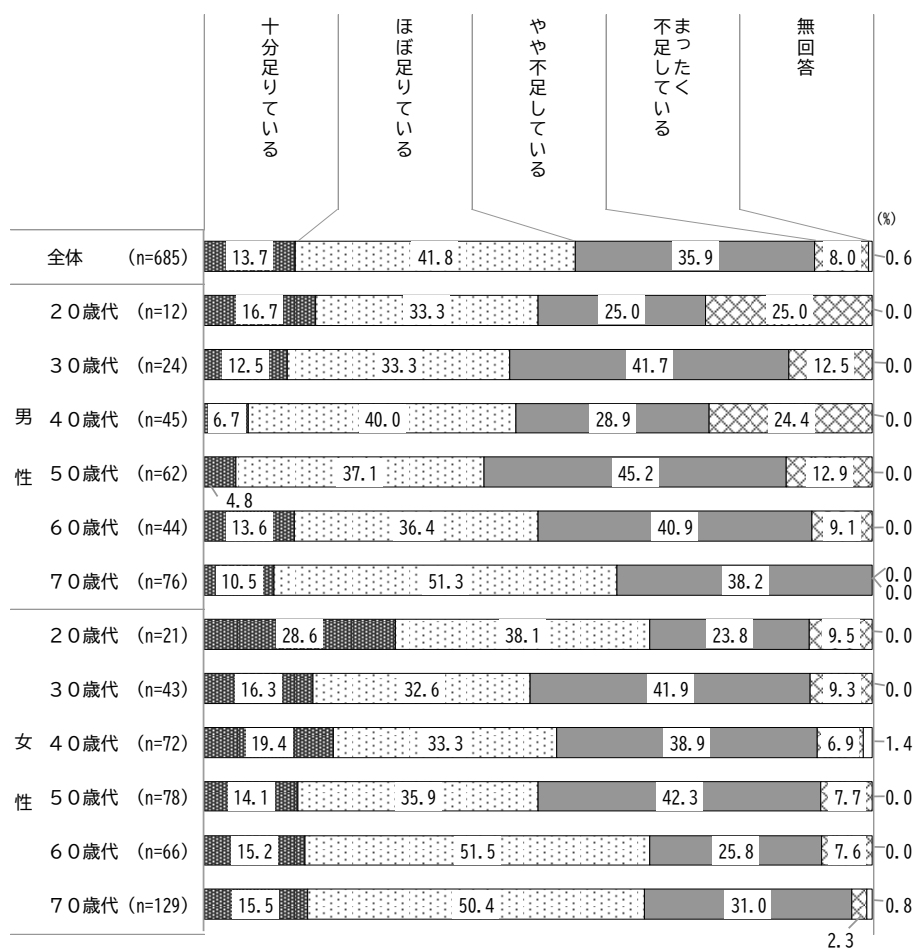
「強く感じる」と「ときどき感じる」を合わせると、20 歳代女性、30 歳代から 50 歳代で7割から8割強と高くなっています。



問 24 睡眠時間

問 23 で不安やストレスを「強く感じる」と「ときどき感じる」と回答した人の睡眠時間については、「十分足りている」と「ほぼ足りている」を合わせて 55.5%、「やや不足している」と「まったく不足している」を合わせて 43.9%となっており、「十分足りている」と「ほぼ足りている」を合わせた方が 11.6 ポイント高くなっています。

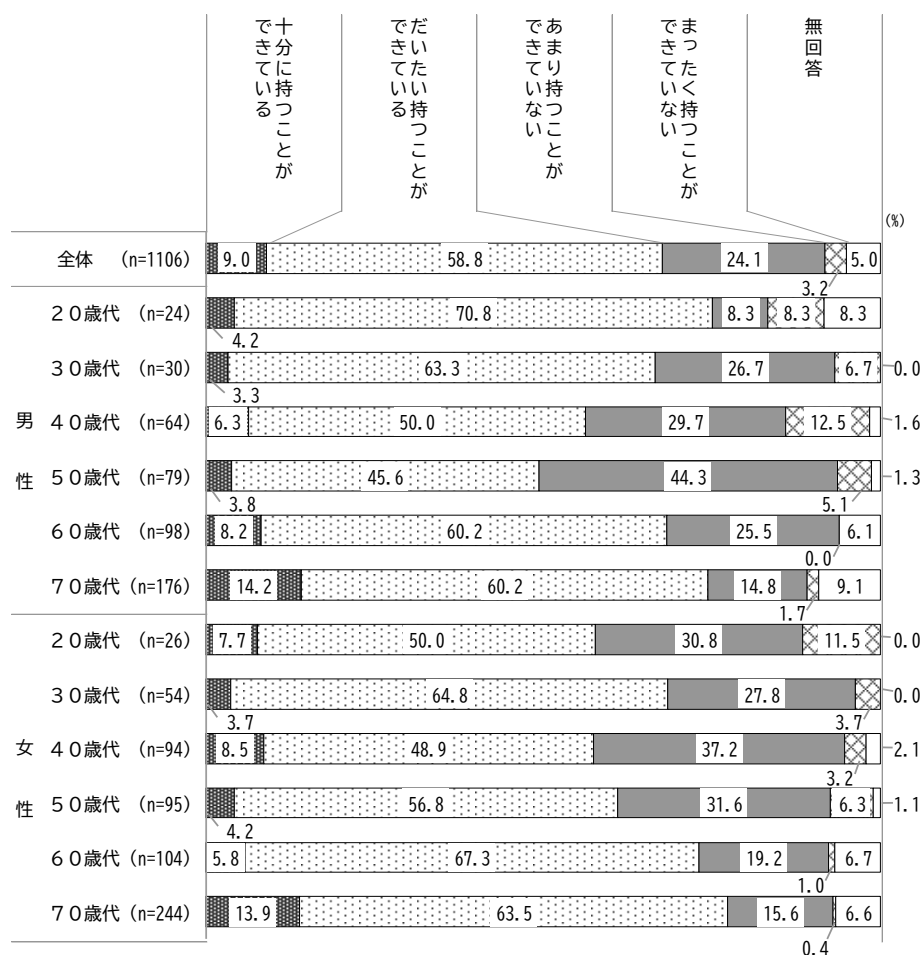
「まったく不足している」は 20 歳代、40 歳代の男性が 25.0%、24.4%と特に高くなっています。



問 25 こころのゆとり

こころのゆとりについては、「十分に持つことができています」と「だいたい持つことができています」を合わせて 67.8%、「あまり持つことができていない」と「まったく持つことができていない」を合わせて 27.3%となっており、「十分に持つことができています」と「だいたい持つことができています」を合わせた方が 40.5 ポイント高くなっています。

「あまり持つことができていない」と「まったく持つことができていない」を合わせると、20 歳代女性が 42.3%、40 歳代男女が 42.2%、40.4%、50 歳代男性が 49.4%と高くなっています。

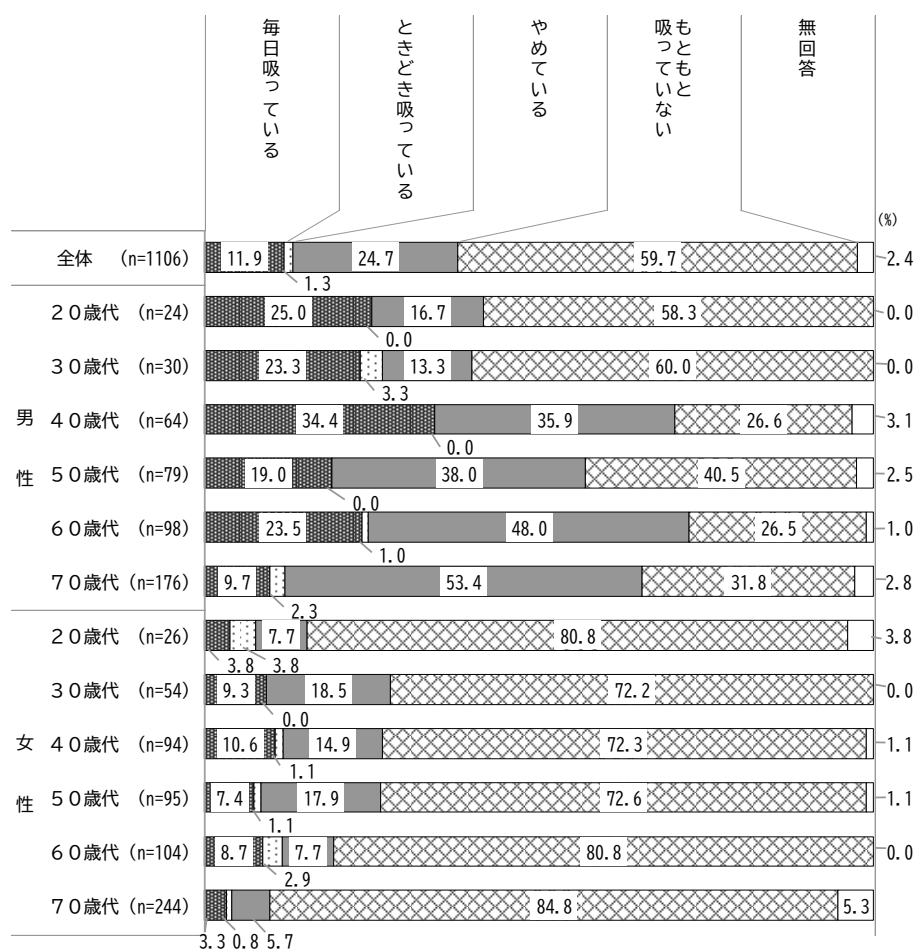
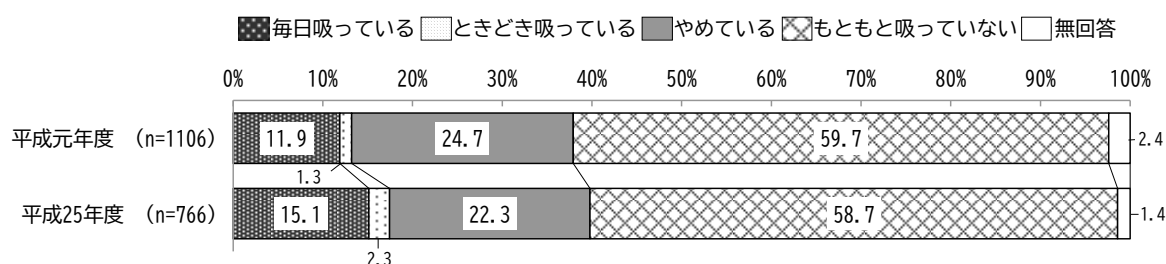


問 28 喫煙状況

喫煙状況については、「毎日吸っている」と「ときどき吸っている」を合わせて 13.2%、「やめている」と「もともと吸っていない」を合わせて 84.4%となっており、「やめている」と「もともと吸っていない」を合わせた方が 71.2 ポイント高くなっています。

前回調査との比較では、「毎日吸っている」と「ときどき吸っている」を合わせて 13.2%と 4.2 ポイント減少し、『吸っていない』が 84.4%と 3.4 ポイント増加しています。

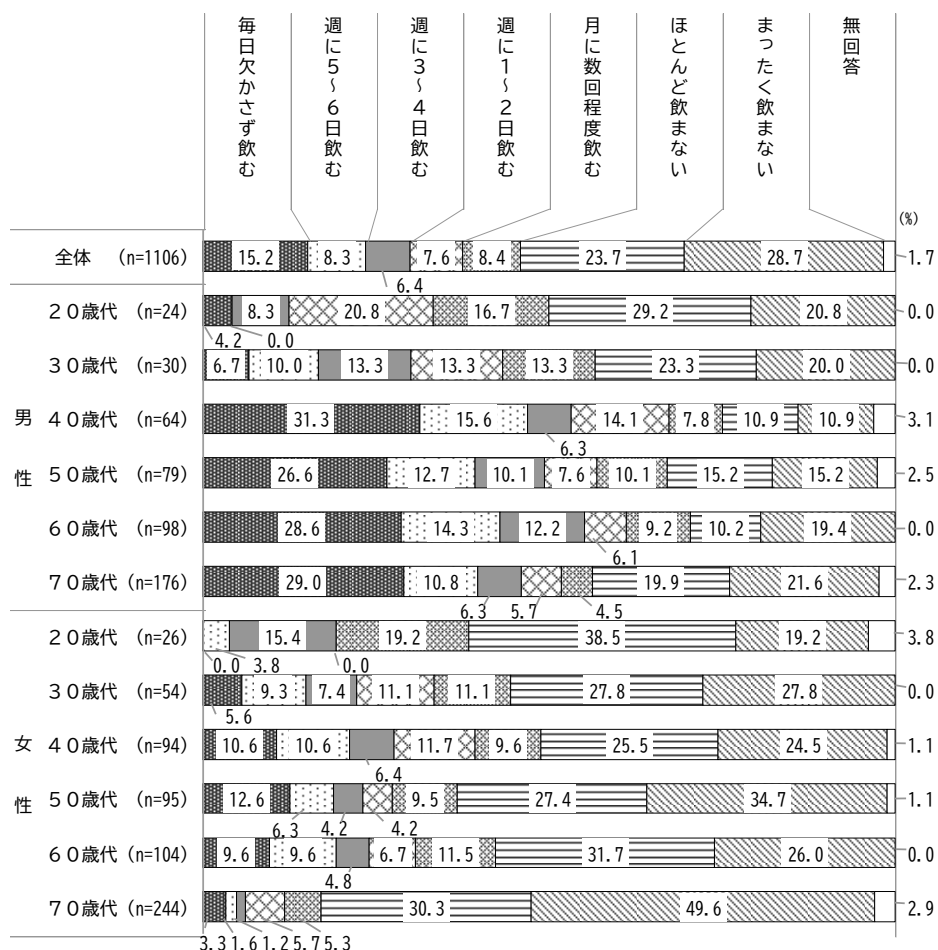
全ての年代において、「毎日吸っている」は男性の方が女性に比べて高くなっており、特に 40 歳代の男性は 34.4%と高くなっています。



問 30 飲酒状況

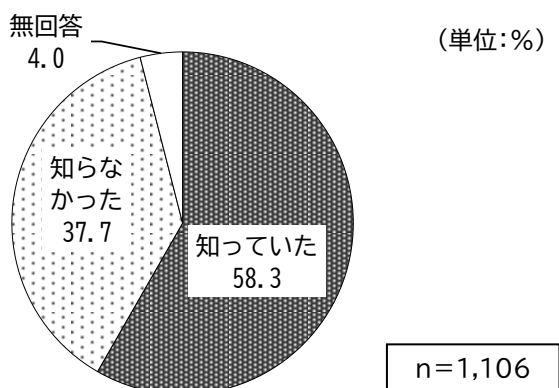
飲酒状況については、「まったく飲まない」が 28.7%と最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が 23.7%、「毎日欠かさず飲む」が 15.2%、「月に数回程度飲む」が 8.4%、「週に5～6日飲む」が 8.3%、「週に1～2日飲む」が 7.6%、「週に3～4日飲む」が 6.4%となっています。「週に1日以上飲む」人は 37.5%となっています。

全ての年代において、「毎日欠かさず飲む」は男性の方が女性に比べて高くなっており、特に 40 歳代から 70 歳代の男性は、31.3%、26.6%、28.6%、29.0%と高くなっています。



問 34 「8020(ハチマルニイマル)」の認知度

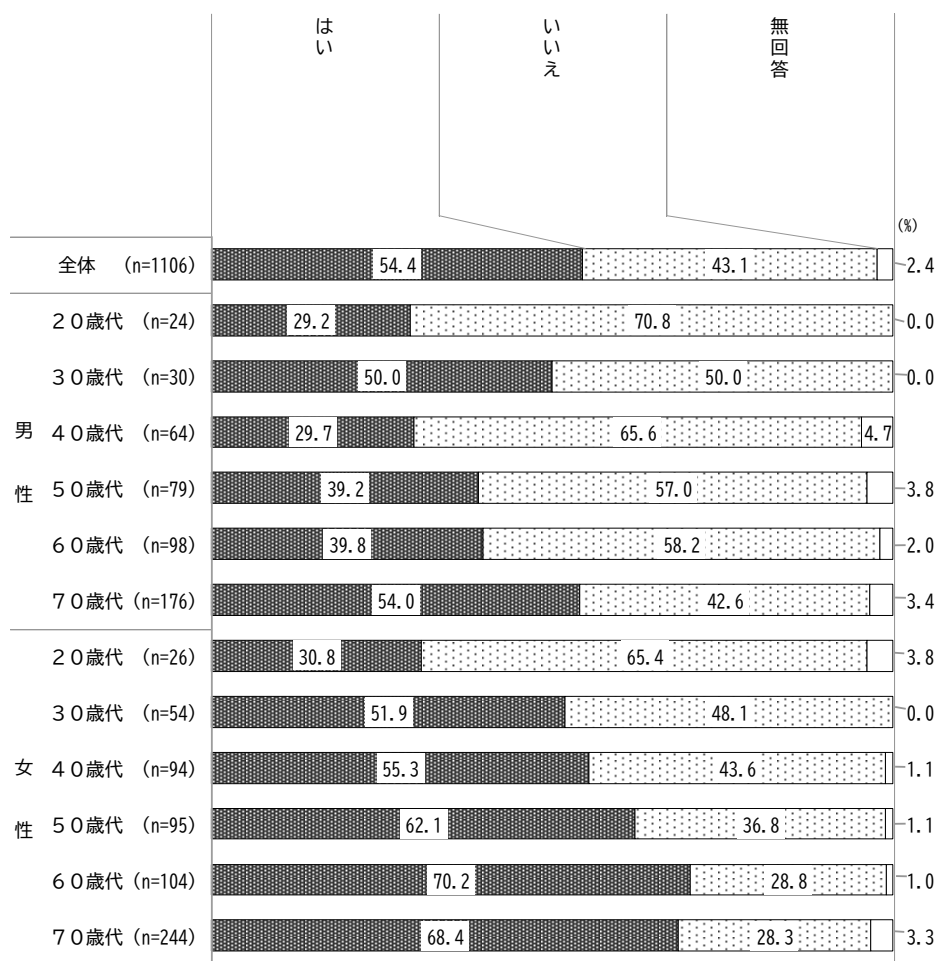
「8020」の認知度については、「知っていた」が 58.3%、「知らなかった」が 37.7%と、「知っていた」が 20.6 ポイント高くなっています。



問 35 歯科医院での定期健診の状況

歯科医院での定期健診の状況については、「はい」が 54.4%、「いいえ」が 43.1%と、「定期健診を受けている」人の方が 11.3 ポイント高くなっています。

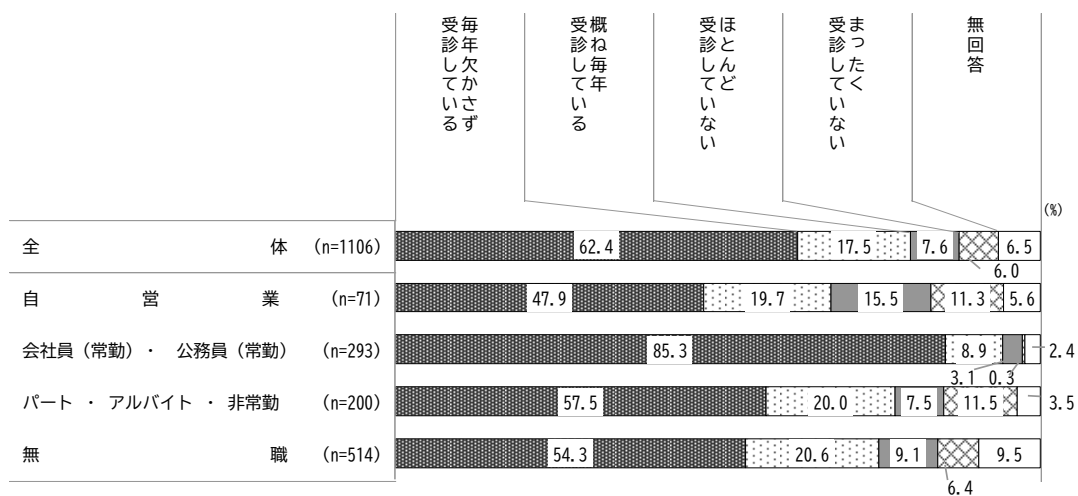
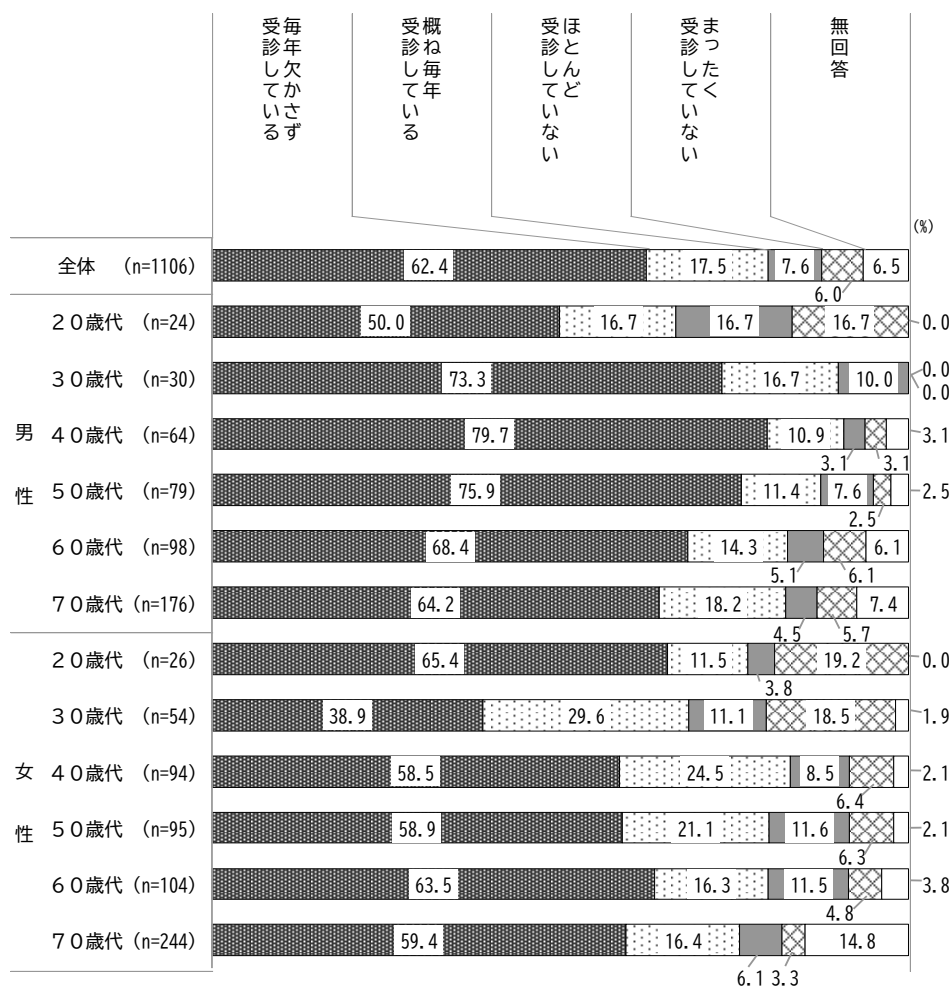
全ての年代において、「いいえ」は男性の方が女性に比べて高くなっており、20 歳代男女、40 歳代男性は 70.8%、65.4%、65.6%と特に高くなっています。



問 37 定期健診の受診状況

定期健診の受診状況については、「毎年欠かさず受診している」と「概ね毎年受診している」を合わせて 79.9%、「ほとんど受診していない」と「まったく受診していない」を合わせて 13.6%となっており、「毎年欠かさず受診している」と「概ね毎年受診している」を合わせた方が 66.3 ポイント高くなっています。

「ほとんど受診していない」と「まったく受診していない」を合わせると、自営業が 26.8%と特に高くなっています。



問 38 定期的に受診している検診の種類

「子宮がん」は、20 歳代、70 歳代で 11.5%、10.2%、「乳がん」は 20 歳代、70 歳代で 15.4%、15.6% と特に低くなっています。一方、40 歳代、50 歳代は、「子宮がん」、「乳がん」ともに5割を超えています。

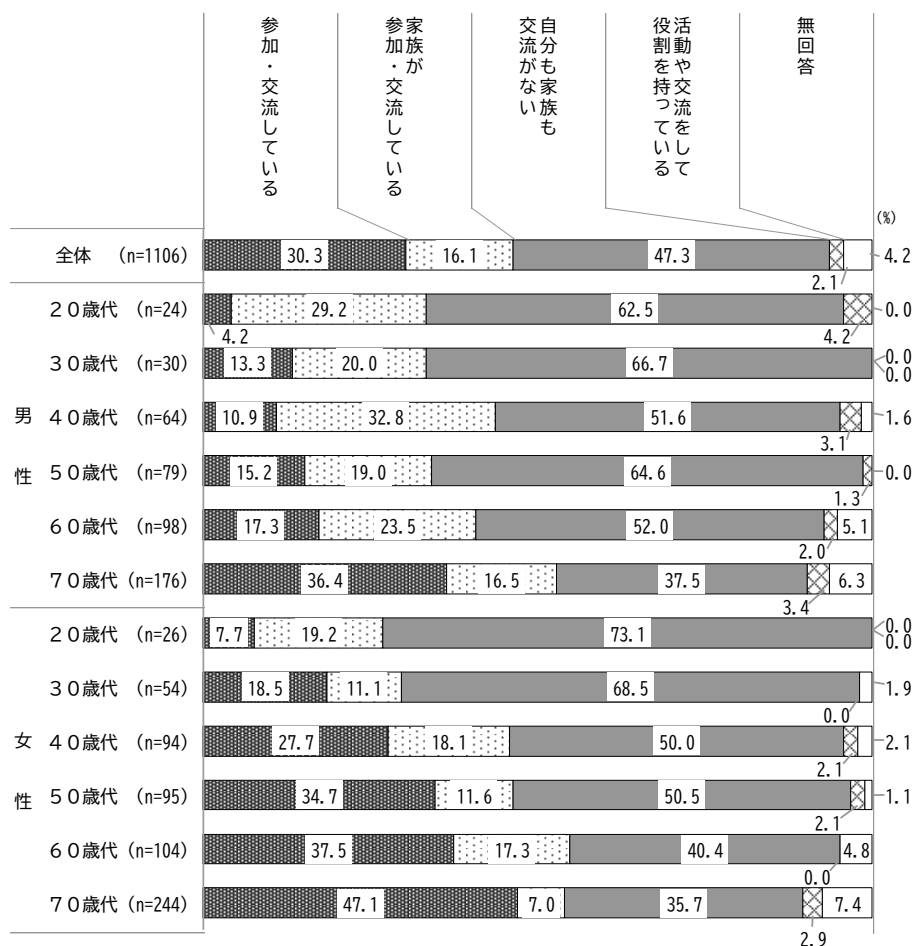
		合計	特定健診 (成人健診)	胃がん	肝炎ウイルス	歯周疾患	骨粗鬆症	肺がん
	全体	1106	448	225	41	120	78	104
		100.0	40.5	20.3	3.7	10.8	7.1	9.4
【性年齢別】	20歳代-男	24	4	0	0	0	0	0
		100.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代-女	26	3	0	0	0	0	0
		100.0	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代-男	30	8	2	0	2	0	2
		100.0	26.7	6.7	0.0	6.7	0.0	6.7
	30歳代-女	54	8	2	0	1	0	1
		100.0	14.8	3.7	0.0	1.9	0.0	1.9
	40歳代-男	64	28	6	0	1	0	5
		100.0	43.8	9.4	0.0	1.6	0.0	7.8
	40歳代-女	94	33	23	6	4	2	11
		100.0	35.1	24.5	6.4	4.3	2.1	11.7
	50歳代-男	79	42	17	3	3	1	5
		100.0	53.2	21.5	3.8	3.8	1.3	6.3
	50歳代-女	95	40	25	4	12	6	13
		100.0	42.1	26.3	4.2	12.6	6.3	13.7
	60歳代-男	98	50	26	6	5	1	8
		100.0	51.0	26.5	6.1	5.1	1.0	8.2
	60歳代-女	104	53	26	7	19	9	14
		100.0	51.0	25.0	6.7	18.3	8.7	13.5
	70歳代-男	176	78	47	4	24	5	26
		100.0	44.3	26.7	2.3	13.6	2.8	14.8
	70歳代-女	244	96	48	9	49	53	17
		100.0	39.3	19.7	3.7	20.1	21.7	7.0
	無回答	18	5	3	2	0	1	2
		100.0	27.8	16.7	11.1	0.0	5.6	11.1

		大腸がん	子宮がん	乳がん	前立腺がん	結核	特に受けていない	無回答
	全体	226	185	216	72	36	350	83
		20.4	16.7	19.5	6.5	3.3	31.6	7.5
【性年齢別】	20歳代-男	0	0	0	0	0	20	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0
	20歳代-女	0	3	4	0	1	19	0
		0.0	11.5	15.4	0.0	3.8	73.1	0.0
	30歳代-男	0	0	0	1	0	19	0
		0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	63.3	0.0
	30歳代-女	2	19	16	0	0	25	1
		3.7	35.2	29.6	0.0	0.0	46.3	1.9
	40歳代-男	11	0	0	1	0	26	5
		17.2	0.0	0.0	1.6	0.0	40.6	7.8
	40歳代-女	19	49	55	0	4	20	4
		20.2	52.1	58.5	0.0	4.3	21.3	4.3
	50歳代-男	16	0	0	3	3	28	3
		20.3	0.0	0.0	3.8	3.8	35.4	3.8
	50歳代-女	24	49	56	0	2	18	3
		25.3	51.6	58.9	0.0	2.1	18.9	3.2
	60歳代-男	21	0	0	22	1	24	7
		21.4	0.0	0.0	22.4	1.0	24.5	7.1
	60歳代-女	33	38	46	0	3	24	5
		31.7	36.5	44.2	0.0	2.9	23.1	4.8
	70歳代-男	49	0	0	43	6	58	10
		27.8	0.0	0.0	24.4	3.4	33.0	5.7
	70歳代-女	49	25	38	0	15	65	41
		20.1	10.2	15.6	0.0	6.1	26.6	16.8
	無回答	2	2	1	2	1	4	4
		11.1	11.1	5.6	11.1	5.6	22.2	22.2

問 45 地域との関わりなどについて

自治会などの仲間づくり活動への参加や交流状況については、「自分も家族も交流がない」が 47.3%、「参加・交流している」が 30.3%、「家族が参加・交流している」が 16.1%、「活動や交流をして役割を持っている」が 2.1%となっています。

「自分も家族も交流がない」は 20 歳代・30 歳代男女、50 歳代の男性が 62.5%、73.1%、66.7%、68.5%、64.6%と特に高くなっています。



【6】健康に関する意識調査(中学1年生)の主な結果

1 調査の概要

調査の目的

当市では、「第2次東大和市健康増進計画」の策定に当たり、日頃の中学1年生の食生活や運動、休養(睡眠)などふだんの生活の状況を把握し、心身ともに健康に暮らしていけるように支援していくための基礎資料とするために意識調査を実施しました。

調査の方法

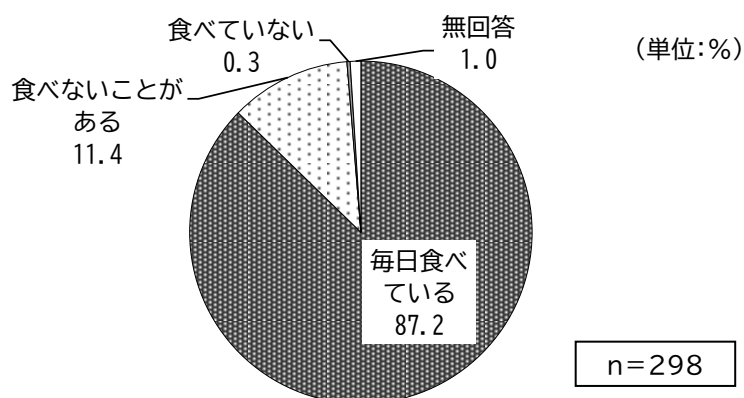
- 調査対象:市内在住の中学1年生全数
- 調査期間:2019(令和元)年12月10日(火)~12月24日(火)
- 調査方法:郵送配布・郵送回収
- 配布・回収状況:

配布数	回収数	有効回答数	有効回収率
710 票	298 票	298 票	42.0%

2 主な調査結果

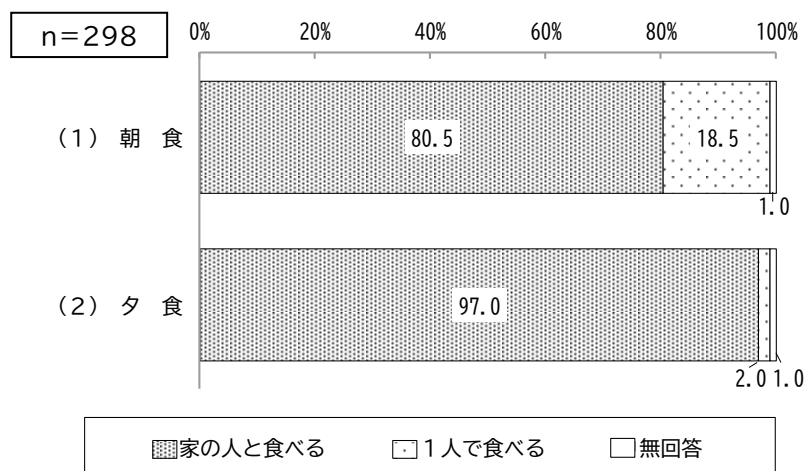
問2 朝食の摂取状況

朝食の摂取状況については、「毎日食べている」が 87.2 %と最も高く、次いで「食べないことがある」が 11.4%、「食べていない」が 0.3%となっています。



問3 朝食・夕食をとる相手

朝食については、「家の人と食べる」が 80.5%、「1人で食べる」が 18.5%となっています。
夕食については、「家の人と食べる」が 97.0%、「1人で食べる」が 2.0%となっています。



問5 東大和市産の野菜の認知状況(記述式)

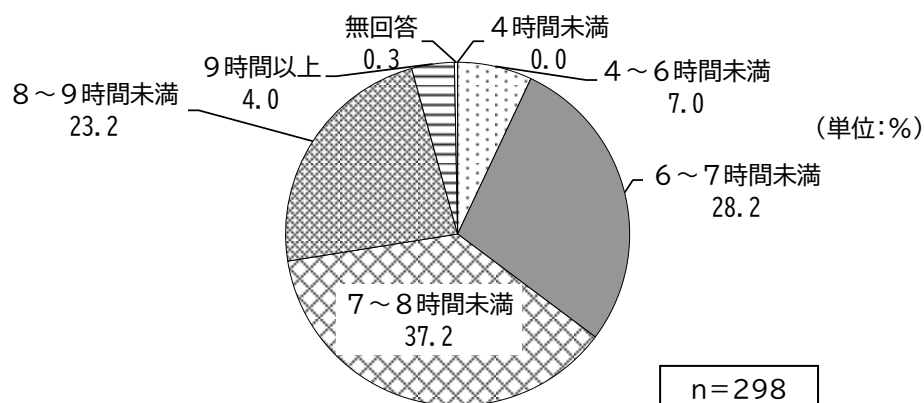
記述の多かった野菜は、以下のとおりです。

順位	野菜名	回答数
1	人参	50
2	キャベツ	40
3	じゃがいも	33
4	さつまいも	31
5	ほうれん草	27

順位	野菜名	回答数
6	トマト	26
7	大根	23
8	きゅうり	18
	ネギ	
10	ブロッコリー	16

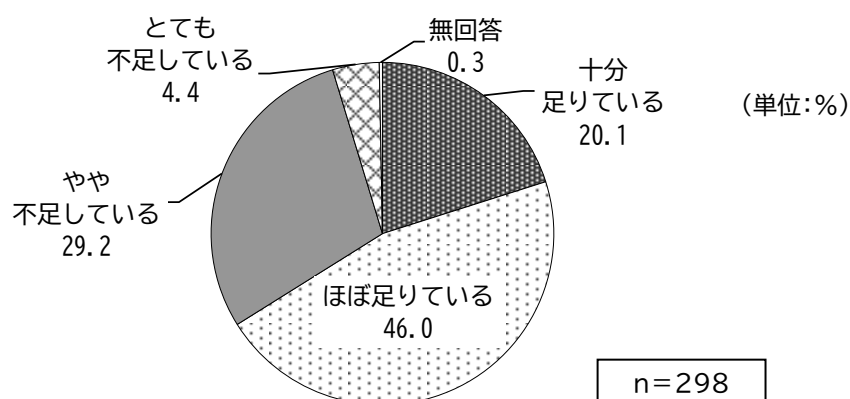
問9 睡眠時間

睡眠時間については、「7～8時間未満」が 37.2%と最も高く、次いで「6～7時間未満」が 28.2%、「8～9時間未満」が 23.2%、「4～6時間未満」が 7.0%、「9 時間以上」が 4.0%となっています。
なお、「4時間未満」はいませんでした。



問 10 睡眠時間の充足感

睡眠時間の充足感については、「ほぼ足りている」と「十分足りている」を合わせて 66.1%、「やや不足している」と「とても不足している」を合わせて 33.6%となっており、「ほぼ足りている」と「十分足りている」を合わせた方が 32.5 ポイント高くなっています。



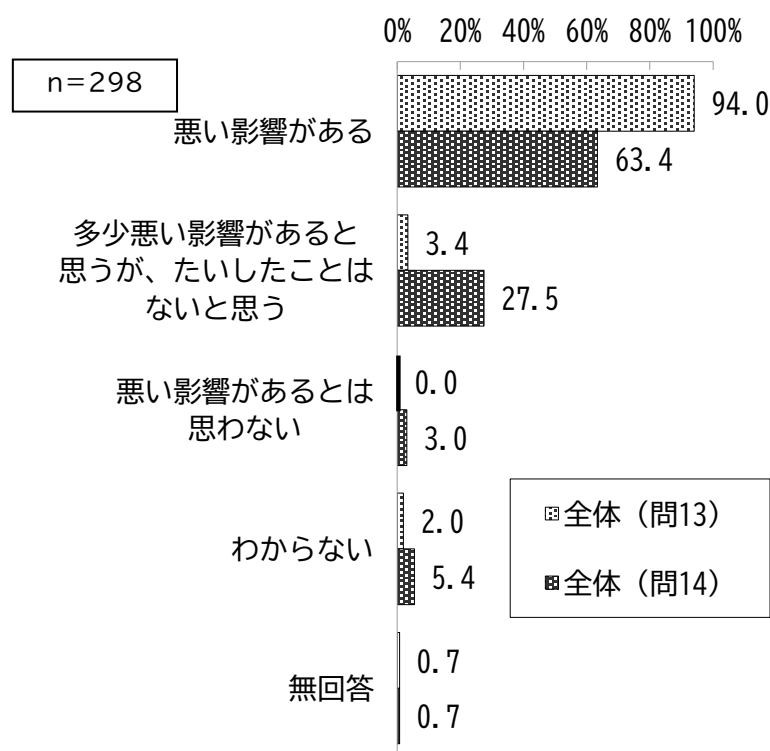
問 13 たばこの悪い影響の有無

たばこは悪い影響があるかどうかについては、「悪い影響がある」が 94.0%と9割を超え高く、「多少悪い影響があると思うが、たいしたことはないと思う」が 3.4%となっています。

なお、「悪い影響があるとは思わない」はいませんでした。

問 14 お酒の悪い影響の有無

お酒は悪い影響があるかどうかについては、「悪い影響がある」が 63.4%と最も高く、次いで「多少悪い影響があると思うが、たいしたことはないと思う」が 27.5%、「悪い影響があるとは思わない」が 3.0%となっています。



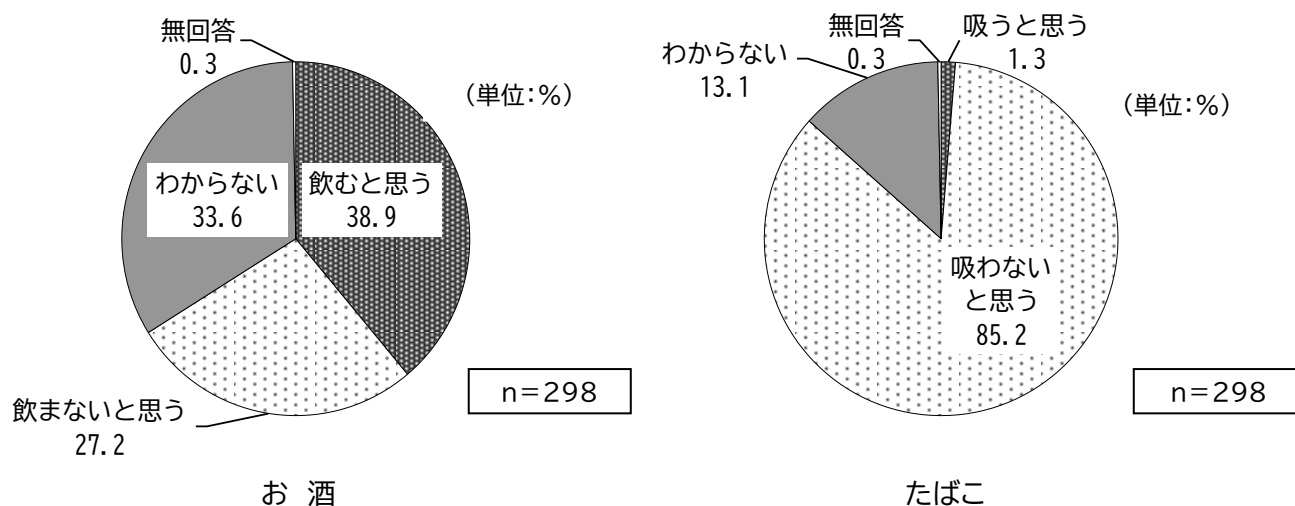
問 15 成人時のお酒、たばこの摂取意向

(1) お酒

成人になったらお酒を飲むかどうかについては、「飲むと思う」が 38.9%、「飲まないと思う」が 27.2%と「飲むと思う」が 11.7 ポイント高くなっています。

(2) たばこ

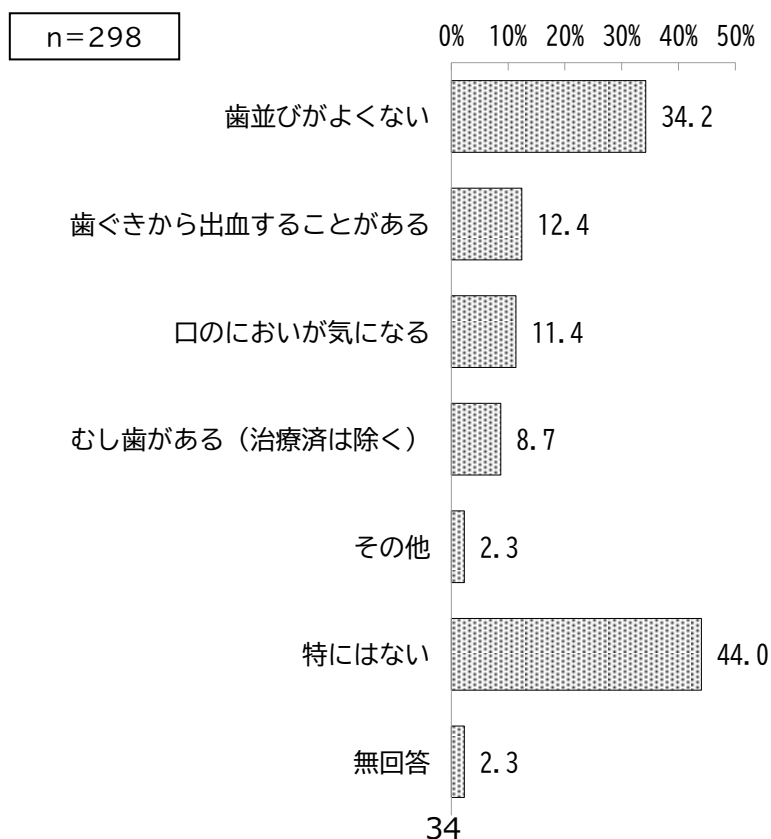
成人になったらたばこを吸うかどうかについては、「吸わないと思う」が 85.2%と「吸うと思う」の 1.3%を大きく上回っています。



問 16 歯や口の状態

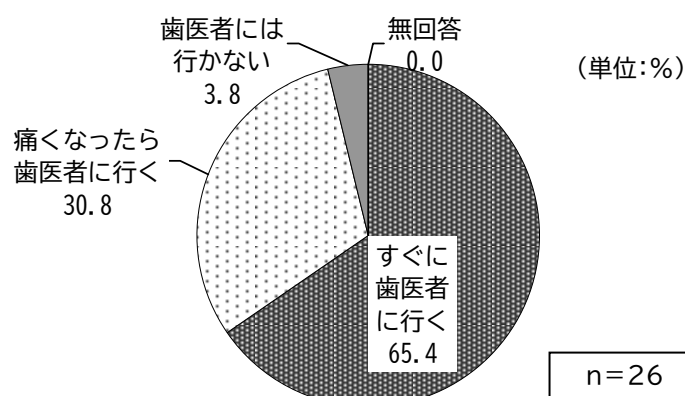
歯や口の状態については、「歯並びがよくない」が 34.2%と最も高く、次いで、「歯ぐきから出血することがある」が 12.4%、「口のおいが気になる」が 11.4%、「むし歯がある(治療済は除く)」が 8.7%となっています。

なお、「特にはない」は 44.0%となっています。



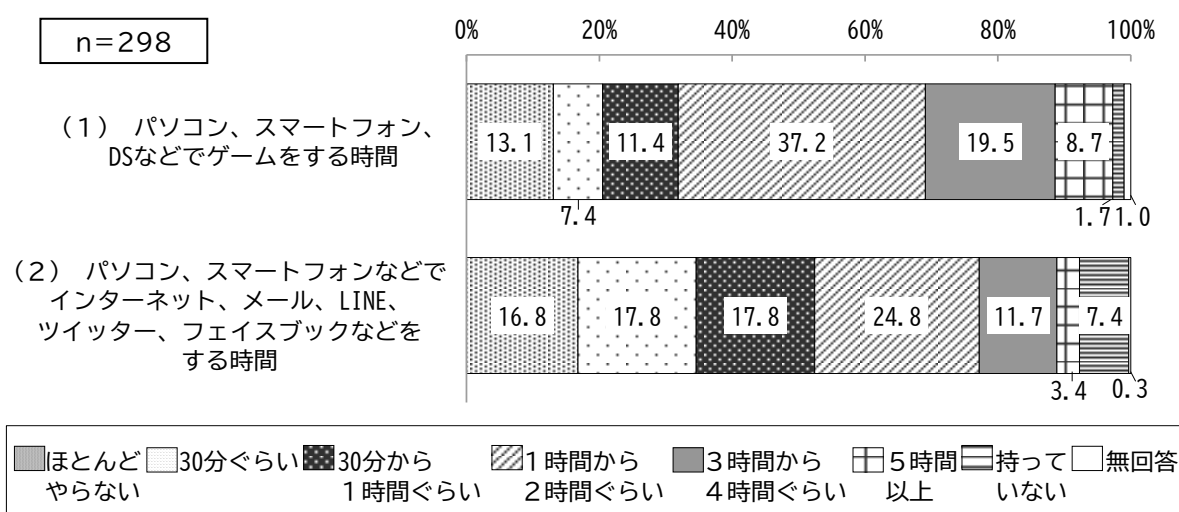
問 16-1 むし歯がある時の対応

むし歯がある時については、「すぐに歯医者に行く」が 65.4%(17 人)と最も高く、次いで「痛くなったら歯医者に行く」が 30.8%(8 人)、「歯医者には行かない」が 3.8%(1人)となっています。



問 18(1) パソコン、スマートフォン、DSなどでゲームをする時間

パソコン、スマートフォン、DSなどでゲームをする時間については、「1時間から2時間ぐらい」が 37.2%と最も高く、次いで「3 時間から4時間ぐらい」が 19.5%、「ほとんどやらない」が 13.1%、「30 分から1時間ぐらい」が 11.4%、「5時間以上」が 8.7%、「30 分ぐらい」が 7.4%となっています。



【7】健康に関する意識調査のまとめ

1 市民の健康に関する意識調査

1 食生活について

朝食の摂取状況(問 10)は、「食べていない」が全体で 5.9%となっていますが、特に男性の 20 歳代、30 歳代では 25%を超えており、男性の若年層での欠食が目立ちます。毎回の食事での野菜の摂取状況(問 13(2))は、「食べないことがある」が全体で 41.0%となっていますが、女性の 20 歳代では、73.1%と特に高くなっています。東大和市産の野菜の利用状況(問 14)は、「利用していない」は、20 歳代から 50 歳代で 28%前後と高くなっています。一方で、食生活で心がけていること(問 16)では、「野菜を食べること」(63.2%)、「朝食を摂るなど規則正しい食生活」(61.8%)が上位を占めており、重要だと認識している市民は多くなっています。野菜は地産地消の観点からも東大和市産の野菜を利用しながら、野菜を身近に感じてもらい、普段の食生活に積極的に取り入れることが必要です。「食育」の関心度(問 18)は、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせると 76.5%と前回調査(H25 年度)より 9.1 ポイント増加しており、関心が高くなっている状況がうかがえますが、男性の 30 歳代、70 歳代を除く各年代では「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせた割合が高くなっています。

2 運動習慣について

習慣的な運動状況(問 20)は、「ほぼ毎日運動をしている」と「週に数日運動をしている」を合わせると 49.3%と前回調査(H25 年度)より 3.8 ポイント増加していますが、「特に何もしていない」も 46.3%となっています。特に 20 歳代から 50 歳代で高くなっていることから、普段から運動する習慣を身につけることが必要です。

3 休養とこころの健康づくりについて

不安やストレスの有無(問 23)は、全体では「強く感じる」は 13.1%となっていますが、男性 30 歳代から 50 歳代、女性 20 歳代から 40 歳代で「強く感じる」が 20%を超え特に高くなっています。また、不安やストレスを「強く感じる」、「ときどき感じる」と回答した人に、普段の睡眠時間(問 24)を聞いたところ、「まったく不足している」と「やや不足している」を合わせると、男性で 70 歳代を除く全ての年代で、女性では 30 歳代、50 歳代で 50%を超えて高くなっています。また、こころのゆとり(問 25)は、「まったく持つことができていない」、「あまり持つことができていない」を合わせると、20 歳代女性、40 歳代男女、50 歳代男性で 40%を超えて高くなっています。

睡眠不足は、疲労感とともに情緒を不安定にし、適切な判断力を鈍らせるなど、生活の質に大きな影響をもたらすとも言われていることから、十分な睡眠時間を確保することが必要です。

4 喫煙・飲酒について

喫煙状況(問 28)は、「毎日吸っている」と「ときどき吸っている」を合わせて 13.2%と前回調査(H25 年度)より 4.2 ポイント減少していますが、男性で喫煙率は高く、特に 40 歳代で「毎日吸っている」は 34.4%となっています。喫煙している男性は、非喫煙者に比べ肺がんによる死亡率が高くなっていることや受動喫煙による健康への影響があることから、さらに禁煙率を減少させることが必要です。また、飲酒状況(問 30)は、全体では「まったく飲まない」、「ほとんど飲まない」を合わせると 52.4%と過半数を超えていますが、男性の 40 歳代から 70 歳代では、「毎日欠かさず飲む」が 30%前後と高くなっています。

5 歯の健康について

「8020(ハチマルニイマル)」の認知度(問 34)は、「知らなかった」が 37.7%となっています。また、歯科医院での定期健診の状況(問 35)では、受けている人は、54.4%となっていますが、受けていない人も 43.1%存在しています。特に 20 歳代男女と 40 歳代男性は、65%を超え高くなっています。歯の大切さとともに、定期健診の必要性を周知する必要があります。

6 健康管理について

定期健診の受診状況(問 37)は、「毎年欠かさず受診している」と「概ね毎年受診している」を合わせて 79.9%となっている一方、「ほとんど受診していない」と「まったく受診していない」を合わせて 13.6%となっています。「ほとんど受診していない」と「まったく受診していない」を合わせると性年代別では 20 歳代男女、30 歳代女性、職業別では自営業が 2～3割と特に高くなっていることから、若年層、自営業に対して定期健診の受診勧奨が必要です。また、定期的に受診している検診の種類(問 38)については、「子宮がん」、「乳がん」はともに 20 歳代、70 歳代で 10%台と特に低くなっています。

7 地域との関わりなどについて

自治会などの仲間づくり活動への参加や交流状況(問 45)は、「自分も家族も交流がない」が全体で 47.3%となっています。男性 70 歳代、女性 60・70 歳代を除く各年代で 50%を超えており、特に 20 歳代・30 歳代男女、50 歳代の男性が 65%前後と特に高くなっていることから、若年層をはじめ、男性 70 歳代、女性 60・70 歳代を除く全ての年代で、地域との関わりをもつよう働きかけることが必要です。

2 中学1年生の健康に関する意識調査

1 食生活について

朝食の摂取状況(問2)は、「食べないことがある」、「食べていない」を合わせると 11.7%となっています。朝食・夕食をとる相手(問3)では、夕食は「1人で食べる」は 2.0%となっていますが、朝食は 18.5%と高くなっており、朝食の欠食、孤食等、食習慣の見直しが必要です。また、東大和市産の野菜の認知状況(問5)は、回答者 298 人のうち 198 人が具体的に記述しており、人参、キャベツ、じゃがいも、さつまいも等が多くなっています。若い世代に対しても、地産地消の考え方を周知していくことが生涯にわたり健全な食生活を実施するために必要です。

2 運動習慣について、その他

一週間のうち運動している日数は、体育の授業以外では「まったくしない」が 17.1%と高くなっています。パソコン、スマートフォン、DS などゲームをする時間(問 18(1))では、1日平均「3時間以上」が 28.2%と約4人に1人となっています。文部科学省で毎年実施している全国体力テスト(小5、中2対象)でも、2019 年度の結果は低下傾向にあり、その原因の一つにゲーム機やスマートフォンを使う時間の増加との分析もあります。自由記述でもゲームやスマートフォンの時間が多すぎる、時間を決めて使う、使う時間を減らしたい等の意見も多く挙がっています。ゲーム機やスマートフォン等の使用時間を減らすこと、運動習慣を身につけていく必要があります。

3 休養とこころの健康づくりについて

睡眠時間(問9)は、「4～6時間未満」が 7.0%となっています。また、睡眠時間の充足感(問 10)では、「とても不足している」(4.4%)と「やや不足している」(29.2%)を合わせると 33.6%と約3人に1人は、寝不足と感じているという結果となっています。自由記述でも睡眠時間を増やしたい、早寝早起きをする等睡眠時間に関する意見が多く挙がっていることから睡眠、休養が健康にとって大切であることを周知する必要があります。

4 喫煙・飲酒について

たばこの悪い影響の有無(問 13)は、「悪い影響がある」は 94.0%と高くなっている一方で、「多少悪い影響があると思うが、たいしたことはないと思う」が 3.4%となっていることや成人時のたばこの摂取意向(問 15)について、「吸うと思う」が 1.3%とわずかではあるが存在することから、今後も禁煙教育をしていくことが必要です。また、お酒の悪い影響の有無(問 14)では、「悪い影響がある」は 63.4%となっています。成人時のお酒の摂取意向(問 15)については、お酒を「飲むと思う」が 38.9%と「飲まないと思う」の 27.2%より高くなっているため、不適切な飲酒による害と適正飲酒についての教育をしていくことが必要です。

5 歯の健康について

歯や口の状態(問 16)は、「虫歯がある」は 8.7%(26 人)となっています。また、虫歯がある時の対応(問 16-1)では、「痛くなったら歯医者に行く」が 30.8%(8人)、「歯医者には行かない」も 3.8%(1人)存在しています。当市の平成 30 年度の小中学生のう蝕有病者率は、それぞれ 50%前後となっており、全国と比べても高くなっていることから、学童期の歯の健康について周知していく必要があります。

【8】健康増進計画の達成状況

東大和市健康増進計画においては、2つの総合目標と14の分野別目標を設定し、これまで目標達成のために様々な事業に取り組んできました。

ここでは、直近の実績値をもとに総合目標と分野別目標の達成状況を示します。

なお、目標値は、平成32年度(令和2年度)までに達成する数値、実績値は、成果指標ごとに公的データの最新値を表記しています。実績値の※印は、最新値のデータ資料を表の欄外に記載しています。また、※印のないものについては、「東大和市民の健康に関する意識調査(平成31年度)」の結果によるものです。

1 総合目標の達成状況

総合目標/対象者	計画策定時値	目標値	実績値
健康寿命の延伸 (指標)65歳健康寿命(要支援1以上) /男性、女性	81.3歳 ※1	82.3歳 ※3	81.5歳 ※5
	82.8歳 ※1	83.3歳 ※3	82.8歳 ※5
健康格差の縮小 (指標)自分の健康状態を良いと感じている人の割合/20歳以上	82.2% ※2	82.2%以上 ※4	77.6%

※1 <資料:北多摩西部保健医療圏保健医療福祉データ集(平成25年度版)>
(要支援1以上の認定を受けるまでの平均自立期間で算出した値)

※2 <資料:東大和市民の健康に関する意識調査結果報告書(平成25年度)>

※3 <資料:健康日本21(第二次)目標値(平成34年度)>

※4 <資料:東京都健康推進プラン21(第二次)ベースライン(平成24年)>

※5 <資料:北多摩西部保健医療圏保健医療福祉データ集(令和元年度版)(要支援1以上)>



2 分野別目標の達成状況

(1) 栄養・食生活、食育の推進

成果指標/対象者	性別	計画策定時値	目標値	実績値
1日当たりの野菜を5皿以上(350g)摂取している人の割合/20歳以上	—	0.9% ※1	39.0% ※3	2.2%
「朝食を食べないことがある」又は「食べていない」人の割合 /20～30歳代男性、20歳代女性	男性	44.3% ※1	15.0% ※4	50.0%
	女性	30.9% ※1	15.0% ※4	38.5%
「朝食を食べないことがある」又は「食べていない」人の割合/中学1年	—	15.4% ※2	5.0% ※5	11.7%
肥満の割合 (BMI25.0以上) /20～60歳代男性、40～60歳代女性	男性	26.4% ※1	26.4%以下 ※3	34.2%
	女性	16.4% ※1	16.4%以下 ※3	15.4%
やせの割合 (BMI値 18.5未満)/20歳代	女性	26.2% ※1	23.6% ※3	26.9%
「食育」に関心のある者の割合/20歳以上	—	67.4% ※1	90.0%以上 ※6	76.5%
家族そろって夕食を週3日以上とる者の割合/20歳以上	—	59.5% ※1	71.4% ※6	参考値 34.1% ※7

※1 <資料:東大和市民の健康に関する意識調査結果報告書 (平成 25 年度)>

※2 <資料:食育推進ネットワーク会議調査報告書 (平成 24 年度)>

※3 <資料:健康日本21(第二次)目標値 (平成 34 年度)>

※4 <資料:東京都第2次食育推進計画目標値 (平成 27 年度)>

※5 <資料:健やか親子21(第2次) (中間評価目標)>

※6 <資料:第2次食育推進基本計画目標値 (平成 27 年度)>

※7 東大和市民の健康に関する意識調査 (平成 31 年度)では、朝食、夕食をとる回数の割合であることから、単純に比較はできない。

(2) 身体活動・運動

成果指標/対象者	計画策定時値	目標値	実績値
運動習慣について 運動をしている者の割合 /20歳以上	45.5% ※1	48.0% ※2	49.3%
子どもは習慣的に運動をしていると回答した保護者の割合/18歳以下の子どもの持つ保護者	69.4% ※1	増加傾向へ	66.8%

※1 <資料:東大和市民の健康に関する意識調査結果報告書 (平成 25 年度)>

※2 <資料:健康日本21(第二次)目標値(平成 34 年度)>

(3) 休養

成果指標/対象者	計画策定時値	目標値	実績値
睡眠時間が十分、あるいはほぼ足りている人の割合 /20歳以上	61.1% ※1	68.5% ※2	参考値 55.5% ※3

※1 <資料:東大和市民の健康に関する意識調査結果報告書 (平成 25 年度)>

※2 <資料:東京都健康推進プラン21(第二次)ベースライン(平成 24 年)>

※3 東大和市民の健康に関する意識調査(平成 31 年度)では、不安やストレスを感じている人に睡眠時間を聞いた割合であるため、単純に比較はできない。

(4)飲酒

成果指標/対象者	計画策定時値	目標値	実績値
1日2合以上の飲酒の割合/20 歳以上	26.4% ※1	19.0%以下 ※3	20.5%
妊婦の飲酒の割合(母子健康手帳発行時)/妊婦	17.7% ※2	0.0% ※4	14.5% ※5

※1 <資料:東大和市民の健康に関する意識調査結果報告書 (平成 25 年度)>

※2 <資料:健康課(平成 25 年度)>

※3 <資料:東京都健康推進プラン21(第二次)ベースライン(平成 24 年)>

※4 <資料:健康日本21(第二次)(目標年度平成 34 年度)>

※5 <資料:健康課(平成31年度)>

(5)喫煙(「COPD」慢性閉塞性肺疾患対策を含む)

成果指標/対象者	性別	計画策定時値	目標値	実績値
たばこを吸っている人の割合 /男性 40 歳代、女性 40 歳代	男性	36.4% ※1	15.0% ※3	34.4%
	女性	11.4% ※1	8.0% ※3	11.7%
たばこを吸っている人の割合/20 歳以上	—	17.4% ※1	15.0% ※3	13.2%
「慢性閉塞性肺疾患(COPD)」について 知っている人の割合/20 歳以上	—	16.2% ※1	58.0% ※4	19.5%
妊婦の喫煙の割合(母子健康手帳発行時) /妊婦	—	2.7% ※2	0.0% ※3	2.5% ※6
育児期間中の父親の喫煙率 /3~4か月児健診対象者の父親	男性	30.1% ※2	24.0% ※5	33.9% ※6
育児期間中の母親の喫煙率 /3~4か月児健診対象者の母親	女性	2.7% ※2	0.2% ※5	4.9% ※6

※1 <資料:東大和市民の健康に関する意識調査結果報告書 (平成 25 年度)>

※2 <資料:健康課(平成 25 年度)>

※3 <資料:健康日本21(第二次)(目標年度平成 34 年度)>

※4 <資料:東京都健康推進プラン21(第二次)ベースライン(平成 24 年)>

※5 <資料:健やか親子21(第2次)(中間評価目標)参考>

※6 <資料:健康課(平成31年度)>

* 以下の主な酒類の量は、純アルコールで 20 g に相当します。

日本酒 1 合(180ml)=ビール	中びん 1 本 (500ml)
=缶チューハイ	ロング缶 1 缶(500ml)
=焼酎	0.6 合 (約 110ml)
=ウイスキー	ダブル 1 杯 (60ml)
=ワイン	1/4 本 (約 180ml)

出典:「公益社団法人アルコール健康医学協会 HP」を参考に作成



(6)歯と口腔の健康づくり

成果指標/対象者	計画策定時値	目標値	実績値
むし歯のない3歳児の割合 (3歳児健康診査時)/3歳児	85.1% ※1	88.0% ※4	91.1% ※7
永久歯のむし歯のない割合/中学1年	51.5% ※2	59.6% ※5	67.5% ※8
歯肉に炎症がある十代の割合(歯肉の状態: 歯周疾患及び歯周疾患要観察者) /中学1年	27.3% ※2	22.9% ※4	35.1% ※8
「8020」を知っていた者の割合/20歳以上	55.6% ※3	57.6%以上 ※6	58.3%

※1 <資料:健康課(平成25年度)>

※2 <資料:東京都学校保健統計書(平成25年度)>

※3 <資料:東大和市民の健康に関する意識調査結果報告書(平成25年度)>

※4 <資料:健やか親子21(第2次)(中間評価目標)>

※5 <資料:歯科口腔保健の推進に関する法律に基づき定められた基本的事項の目標値(平成34年度目標)>

※6 <資料:東京都健康推進プラン21(第二次)ベースライン(平成21年)>

※7 <資料:健康課(平成31年度)>

※8 <資料:東京都学校保健統計書(令和元年度)>

(7)こころの健康・働く世代の健康づくり

成果指標/対象者	計画策定時値	目標値	実績値
不安やストレスを強く感じている人の割合 /20歳以上	16.7% ※1	減らす	13.1%
こころのゆとりを持つことができる人の 割合/20歳以上	61.4% ※1	65.3%以上 ※2	67.8%

※1 <資料:東大和市民の健康に関する意識調査結果報告書(平成25年度)>

※2 <資料:東京都健康推進プラン21(第二次)ベースライン(平成24年)>

(8)次世代の健康

成果指標	対象者	計画策定時値	目標値	実績値
乳幼児健康診査未受診率	3～4か月児	4.4% ※1	3.0% ※2	3.9% ※3
	1歳6か月児	7.4% ※1	4.0% ※2	5.2% ※3
	3歳児	9.7% ※1	6.0% ※2	7.0% ※3
マタニティマークを妊娠中に使用した ことのある母親の割合	産婦	52.3% ※2	60.0%以上 ※2	52.3% ※3

※1 <資料:健康課(平成25年度)>

※2 <資料:健やか親子21(第2次)ベースライン、中間評価(5年後:平成31年度)目標>

※3 <資料:健康課(平成31年度)>

(9)高齢者の健康

成果指標/対象者	性別	計画策定時値	目標値	実績値
ロコモティブシンドローム (運動器症候群)の認知度/20歳以上	—	10.1% ※1	54.9% ※4	17.8%
高齢者の社会参加の割合 /男性 70 歳以上、女性 70 歳以上	男性	46.2% ※1	66.5% ※4	36.4%
	女性	49.4% ※1	67.8% ※4	47.1%
シルバー人材センター就業率 /(就業者実人員/会員数)	—	82.6% ※2	87.6% ※2	85.5% ※5
第 1 号被保険者に占める要介護認定 者の割合/65 歳以上	—	15.0% ※3	15.0%以下 ※3	19.1% ※6

※1 <資料:東大和市民の健康に関する意識調査結果報告書 (平成 25 年度)>

※2 <資料:福祉・衛生 統計年報 (平成 24 年度) 東京都福祉保健局平成 25 年 12 月発行>

※3 <資料:東京都福祉保健局ホームページ「平成 25 年度介護保険事業状況報告(月報より)」>

※4 <資料:健康日本21(第二次)目標値(平成 34 年度)>

※5 <資料:福祉・衛生統計年報(平成 30 年度)>

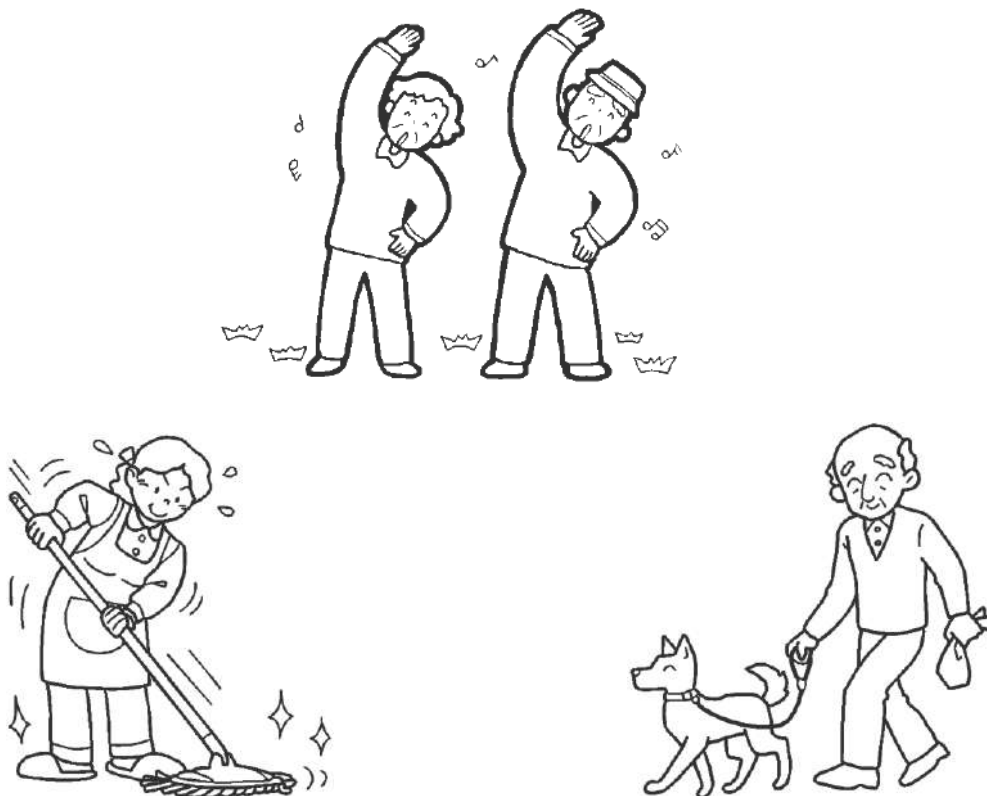
※6 <資料:介護保険事業状況報告月報(令和2年9月末)>

(10)社会環境整備

成果指標/対象者	計画策定時値	目標値	実績値
地域活動への参加・交流の割合/20 歳以上	31.6% ※1	48.9% ※2	30.3%

※1 <資料:東大和市民の健康に関する意識調査結果報告書 (平成 25 年度)>

※2 <資料:東京都健康推進プラン21(第二次)ベースライン(平成 24 年)>



(11)がん対策の推進

成果指標	検診内容	計画策定時値	目標値	実績値
がん検診の受診率	胃がん検診	2.2% ※1	9.6% ※2	3.7% ※4
	肺がん検診	2.5% ※1	17.2% ※2	3.6% ※4
	大腸がん検診	5.7% ※1	16.8% ※2	6.4% ※4
	子宮頸がん検診	14.0% ※1	23.9% ※2	12.1% ※4
	乳がん検診	16.6% ※1	19.0% ※2	15.6% ※4
精密検査受診率	胃がん検診	77.5% ※1	77.5%以上 ※3	98.1% ※4
	肺がん検診	91.2% ※1	91.2%以上 ※3	100.0% ※4
	大腸がん検診	80.7% ※1	80.7%以上 ※3	85.7% ※4
	子宮頸がん検診	53.2% ※1	70.0%以上 ※3	90.9% ※4
	乳がん検診	88.4% ※1	88.4%以上 ※3	89.9% ※4
精密検査結果未把握率	胃がん検診	21.1% ※1	10.0%以下 ※3	1.9% ※4
	肺がん検診	2.9% ※1	2.9%以下 ※3	0.0% ※4
	大腸がん検診	15.1% ※1	10.0%以下 ※3	3.8% ※4
	子宮頸がん検診	46.8% ※1	10.0%以下 ※3	6.1% ※4
	乳がん検診	6.5% ※1	6.5%以下 ※3	4.2% ※4

※1 <資料:健康課(平成 25 年度)>

※2 <資料:東大和市第四次基本計画(平成 25 年度～平成 33 年度)>

※3 <資料:東京都がん検診の質を評価する指標(平成 24 年度)>

※4 <資料:東京都福祉保健局「区市町村別 がん検診実施状況一覧」 東大和市「プロセス指標等一覧シート」(平成 29 年度)>

(12)糖尿病・メタボリックシンドローム予防対策の推進

成果指標/対象者	性別	計画策定時値	目標値	実績値
特定健康診査の実施率 (国民健康保険被保険者)/40 歳～74 歳	—	51.4% ※1	60.0% ※3 (平成 29 年度)	49.5% ※4
特定保健指導対象者の減少率 (国民健康保険被保険者)/40 歳～74 歳	—	19.7% ※1	25.0% ※3 (平成 29 年度)	19.7% ※5
適正体重(BMI 18.5 以上 25 未満)を 維持している人の割合 /男性 20～69 歳、女性 40～69 歳	男性	68.8% ※2	68.8%以上	60.3%
	女性	70.0% ※2	70.0%以上	68.9%

※1 <資料:平成 25 年度 東京都保険者別特定健診・特定保健指導実施結果報告書>

※2 <資料:東大和市民の健康に関する意識調査結果報告書 (平成 25 年度)>

※3 <資料:東大和市第2期特定健康診査等実施計画(平成 25 年 4 月)>

※4 <資料:保険年金課>

※5 <資料:保険年金課資料より算出>

(13)循環器疾患の対策

成果指標/対象者	性別	計画策定時値	目標値	実績値
身近な医師等(かかりつけ医)のある割合 /20 歳以上	—	72.1% ※1	72.1%以上	72.1%
特定健康診査の実施率 (国民健康保険被保険者)/40 歳～74 歳	—	51.4% ※2	60.0% ※3 (平成 29 年度)	49.5% ※4
特定保健指導対象者の減少率 (国民健康保険被保険者)/40 歳～74 歳	—	19.7% ※2	25.0% ※3 (平成 29 年度)	19.7% ※5
高血圧の改善(収縮期血圧の平均値の低下) /40 歳～74 歳	男性	128.7 mm Hg ※2	134 mm Hg 以下 ※3	128.0 mm Hg ※6
	女性	126.4 mm Hg ※2	129 mm Hg 以下 ※3	125.9 mm Hg ※6
脂質異常症の減少 (総コレステロール 240mg/ dl以上の者の割合)/40 歳～74 歳	男性	10.3% ※2	10.1% ※3	11.3% ※6
	女性	19.4% ※2	18.0% ※3	24.2% ※6
脂質異常症の減少 (LDLコレステロール 160mg/ dl以上の者の割合)/40 歳～74 歳	男性	8.0% ※2	6.9% ※3	8.4% ※6
	女性	12.3% ※2	10.2% ※3	12.7% ※6

※1 <資料:東大和市民の健康に関する意識調査結果報告書 (平成 25 年度)>

※2 <資料:平成 25 年度 東京都保険者別特定健診・特定保健指導実施結果報告書>

※3 <資料:健康日本21(第二次)(目標年度平成 34 年度)>

※4 <資料:保険年金課>

※5 <資料:保険年金課資料より算出>

※6 <資料:健康課:特定健診標準システムによる平成 31 年度特定健診結果>

(14)COPD(慢性閉塞性肺疾患)の対策

COPD(慢性閉塞性肺疾患)の対策についての評価は、P41(5)喫煙において掲載しています。

